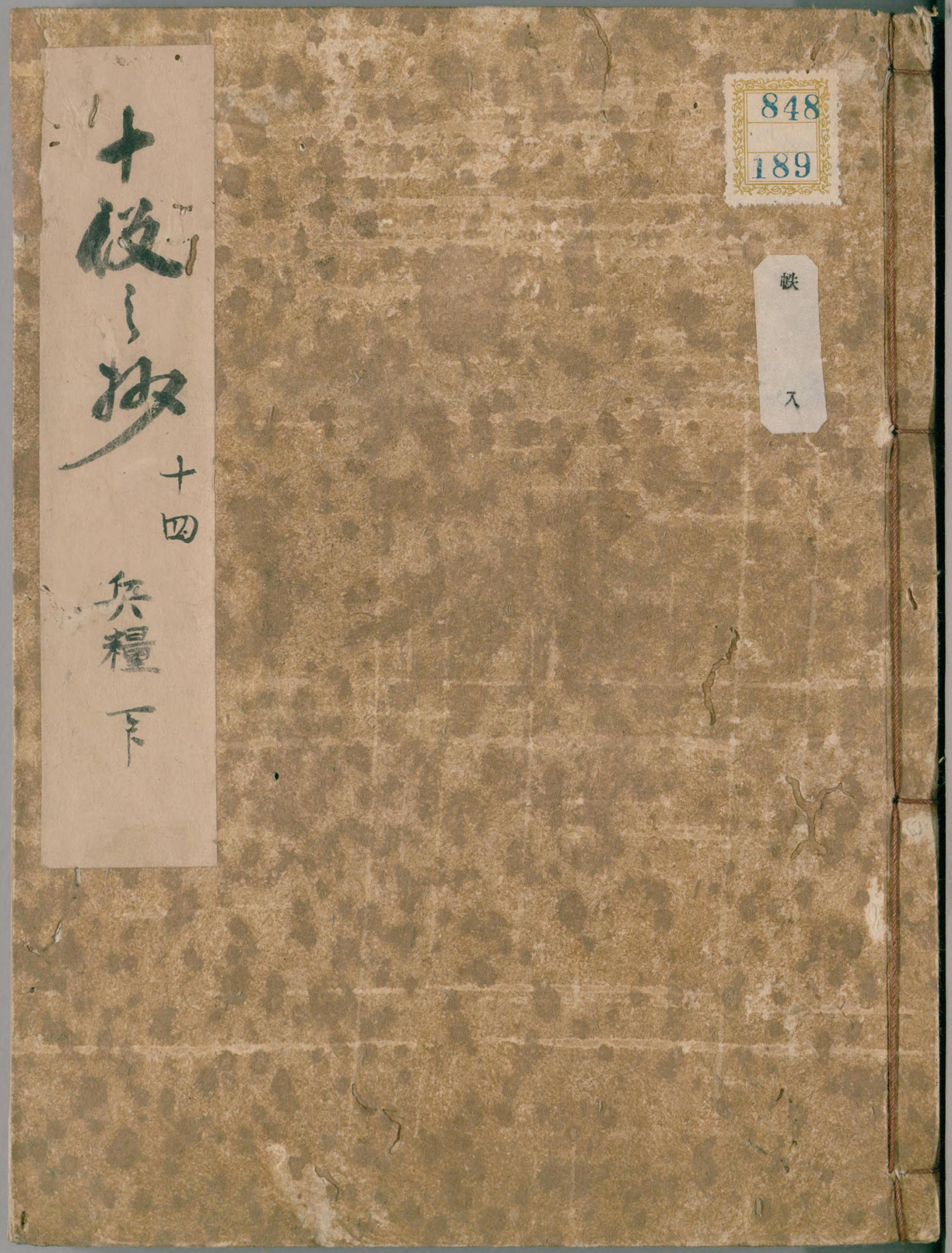

848
189
帙
入

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

兵糧方　巻之下

第八　寺臺所方　寺社方　町方

一地方役人　此分地方ヨ合倫之

地方有納ノ様子ハ前ニ悉ク述之其百姓

治メ其耕業ヲナサシムル事

心得ヲ知ヘキ夫當時ノ百姓トテ賤シキ

ト言シ古ノ白丁トゟ是シ農民ノ服白キヲ

ゟシ白張ヲ着ル故シ漢ノ高祖布衣ヨリ

畢竟心得ノ

畢竟ヲゟンニ

思フハ

808
189

起テトゝモ民間ヨリ起ルトゝ云ヒ士農一致シ
丁ハ仕丁ニテ力役ラスル者ノ名字景丁ノ字ノ
注ニ強シ壮シ民二十以上成(ス)丁ゝシ其国民ノ内
ノ国君ヘ召出サレ伺候ノ者ト成ル故ニ侍トゝ
其殊恩ニ依テ何程ノ田地ヲ給ヒタル地頭
職トゝ云其年貢米ヲ賜ヒ其所ヲ支配スル
ユヘ知行所ナトヽゝ云此節ニ於テ農耕ヲ業
トシ土地ニ散在タル者ハ今ゝ云所ノ百姓シ依之氏
ヲ百姓トゝ云ハ田間ニ多ク人集リテ數多ノ
姓氏アル故シ兵ハ農ヨリ出ルカ故ニ武(モノ)ヽ云ヲ

八十氏人トゝ云百姓八十氏人ハ同義シ元来如此
ノ品タル支ナレハ荒ク仕置ヲナシテハ百姓共是ヲ
不肯余リ緩ウ仕置ヲナシテハ其基ニ愚ナルヨ
リ勝手ヲ仕損シ村里モ却テ荒ルヽ爰ニ於テ
其中分ヲ知ヲ士ノ方ヘ近キヲノ不忘軍用ノ辨スル
支ハ農ノ中ニアル支ヲ知ヲ仕置ヲナス(シ)物ヲ
ノ諸国ヲ見ルニ今時モ諸士農家ニ在住シテ古ヘ
ノ如ク勤ルアリ是ハ其産業ヲ皆諸士自カラナス
所ニヲ善悪ハ各人ノ仕置ニアリ或ハ諸士領分ニ
有ナカラ所務年貢ノ仕様ハ其国主ヨリ定ル

役人ノ心ニアルヘシ或ハ士農大キニワカレテハ農ノ内
大百姓出来テ古代ノ侍ノ農家ニ秀ルカ
如キ勢ヒアル者多クナリ其者則地方ノ下
役人トナルカ如キハ士ト地方ノ勢力ニ
強キ者ヘ或ハ天正年間ノ或ハ天文以往一揆ヲ
起シ其国ノ守護地頭ヲ倒シタル余風アルノ国ヽ
等ハ百姓ノ心根渋フシテヲ扱ニシニクキ時アリ
或ハ當時御代官所ノ如キハ年貢ノ緩ク
ナルニ奢テ近隣ノ私領ト境ヲ争ヒ我意ヲ
ナス等モ諸国ニ多ク若其悪黨ニカサレテ私領

ノ者私曲ヲナスアリ或ハ地頭ト通シ殊ニ海手寄
宜キ地ハ猶更国法ヲ背クノ族多シ如此ハ其
不起ヲ観察シテ法ヲ厳ニシテナサシメサル
ヲ要トス近ク賀府等ノ御改作ノ法ハ傳
聞ノ所百姓ノ機ニ先達テ下知ヲ加ヘ百姓
ノ成立ヲ第一ニシテ大百姓モナク貧ナルモナ
キ様ノ仕置タリトイヘ、是サヘ事數十箇年
ニ及ヘハ上ノ制法ヲ下ニ知カ如キモアリ唯有ル所
ノ貢備ノ不欠ヲ基トシテ愚ヲヨウシメテ其
時ヲシラシメサルヲ第一トスヘシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

附り

郡奉行と百姓方と役人別ニ取扱事

郡方役人ハ唯村里ノ立様ヲ心掛里ゝ五人組ノ法ヲ堅ク申シ組頭名主庄屋年寄等ノ役人ヲ立テ善悪ノ法ヲ正シ或ハ加府ノ如キハ組合頭肝煎ト村御扶持人十村ナト、云ノ名目ニテ他国ノ役人ト別ナシ畢竟常ノ外武芸ヲ專ラトス此ヨリ在ゝ所ゝ鉄炮有無狩人ニ其業練不練ヲ知其外兵器ノ多少村里ノ寺社方ニモ心ヲ付他国者ノ往来入込我支配ノ者ノ他国ヘ往還ノ品殊ニ浪人ノ有無且三民ノ業ナクテ在散セル遊楽伎藝ノ族有無ヲモ計知シ殊ニ新衆人支支馬業ヲ出スヘキ心得ヲ專ラトシテノ仮ニモ忘心ヘカラス第一ハ地形山川海岸ノ摸様ヲ知本道脇道関所間道ノ委細ヲ知リ他国通路ノ有無ヲ察シ知ヘシ慶長三年ニ越後ノ上杉景勝ノ奥州會津ヘ得替有テ其跡ヘ堀左衛門秀治移ラル、節越後所ゝ森林多カリシヲ家老ノ堀監物其森林ヲ伐倒シタリ然ルニ慶長五

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

年石田カ乱ノ節上杉家ノ旧領タルニ依テ越後百
姓等ヲ語ラヒ所々ニ一揆ヲ起ス此時森林ナクテ
隠ルヽ地ナク監物所々ニ一揆ヲ退治テ国中ヲ征
ス是ヨリ先キ謙信公在世ノ時分ヨリ信州河中嶋
ヨリ越後ヘ働キ或ハ後ニ河中嶋ニ森氏居ラレ
トキモ景勝持ノ越後ヘ働入タルニ越後森林多
ク伏兵隠勢ノ見切成難クテ深働キ不叶ト
イヘリ爰ニ知ヘシ同シ地理トイヘ旧領ニテ民ニ親ミ
アルト新領ニテ民ニ親ミナキトテ是ヲ利スルニ表
裏ノ差ヒアリ如此ノ品ハ兵法ヲ知ニアラスハ可叶様
ナシトハイヘ地ノ利スルノ本元ヲ知ンタメ一支ヲ出ス
也且民ノ親不親ハ時機ニヨルトイヘ又其奉行ノ
心ニヨル支ナレハ油断アルヘカラス治世ハ猶下ニ奉公人
等ヲ百姓ヲ子多ク持タル者或ハ高ノ不持ヲ考ヘ
テ出ス等ノ心得等皆郡方ノ役人ノ業タルヘシ
有増ヲトキハ如此又所務方ノ役人ノ勤ル、別ニ
加府等ニテ改作奉行ナトノ勤ルハ是ニ四時ノ節
ヲ考ヘ耕業ノ次第ヲ下知シ土地ノ善悪ヲ考ヘ所
務ニ私曲ナキ様ニシ年ノ豊凶ヲ考テ免合ヲ寛急
ヲナシ正直ニ支ヲ弁ストイヘ必ス有納ヲ多クセント

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

カリニハ非ス軍用ノ本元ヲ知テ工揆ヲ不起黨ヲ
不組様ニ仕置ヲナス是レ見ヘ久ル所ハカリニテハ仕置
ナシ難シ又不見支モ之付難シ故ニ支ハ郡奉行ノナ
ス趣モ知テノ上ニ有納方ニ私曲ヲナサレメス耕業ノ
支ヲ百姓ニ教エ導クホトニナクテハ實意ニ叶難キ
カ有増ハ如此自国ハカリヲ知テモ支不整他国ノ累
年ノ様子モ知テ下知ヲ加フヘキ又検地方ノ役人モ
別ナリ田地掉ヲ入ル品ヽ有支ハ前ニモ有増述ル
然ル其掉ノ入様善悪有テ百姓ノ難儀ニ及ヒタ
トヘハ高免ニ成所トイヘ毛畢竟毎年引免ヒハ其主
ノ損トナル且河除ノ普請等ノ仕様品ヽアル支ナレハ
心ヲ付ノ樞要ヲナスヘシ武家ニ立ツ者ノ一ツトシテ武支
ヲ不離故ニ殊ニ地ノ利ヲ考テ軍用ノ實支ヲ知ニハ
郡方役人ノ支ヲニ同シキシ猶委クハ支ヽ可論之
郡方役人村里山川地心ヲ掛ヘキ事ヲ其
仕立心得ノ事
其品ヲニトキハ一ヽ計ハ難シトイヘ毛其有増ヲ云
トキハ先村里地形ノ高下ハ川ノ上下ニテ心ヲ付
山ハ不及ヽ森林竹叢生立後ニ用ニ立カ不立カヲ
見ヘシ商人多キ村ハ田地薄ク産物多キカラ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

心付ク春ノ祭リノ賑ニアルハ前年ノ作ヨキ故ク
秋ノ祭ノ賑ヲ見テ去年ノ作當年ノ作ノ善
悪ヲ考フヘキ且寺社ノ修理或ハ諸勧進又ハ家
作リ年忌ノ仕様佛神ノ開帳等ニテ豊凶ヲ知リ
田畑屋敷ノ賣買ノ直段ニテ跡ノ免相高下ヲ
知出家浪人等ノ多キ少キニテ里ノ貧福ヲ知
リ又ハ里人夫婦イサカヒ多キハ貧シク少キハヨキ故ク
如此ノ雑多ニモ心ヲ付ヘシ又能村里近辺ノ繪圖
ヲナシ覚エヘシ古キ圖アリトモ時ク違フ者シ又ハ
村里ヘ法度ヲ早ク申渡シ或ハ高札ヲ高札場モ

破損ヲ早ノ直サセ文字ヲ古ノハ取替人ハ村境領境
御殿場御藏場御鷹野場往還脇道間道
馬場御建山御関所等繪圖ニテ能覚ヘ且男女
人別牛馬迄明白ニ大小ノ百姓職人商人等帳ニ
記増減度々改メ知ルトキハ急ニ入用ノトキ不迷シテ
能ク多シ且又其村其里ヨリ出ル産物等委細帳
記覚職人商人モ何村ニ何品ノ者何ヲ何ヨリ
交易スルト帳ニ付テ覚ヘシ無用ノ芝ハ禁シ物シテ
村中ノ出合振廻ヲ禁シ又借金銀米銭モ秋ノ年貢
皆濟以前ニ返弁ヲ停止シ又米大豆等ニ賣候

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

支ハ他国ノ豊ナル事ヲ聞テ貴搏ハセ金銀納トスルハ何ニ
モ此心得アルヘキナリ又一村ノ内ニ富有ナル者ヘ貸急度秋
ノ重宝シ役人是ヲ請合テ貪ナル者ヘ貸急度秋
初メ取立不足ハ又貸ス心得メルヘシ利分一割半ニ割ヘ
ヨリ高ヲハ禁スヘシ田畑ヲ質物ニ入ル事ヲ禁シ其代ニ
役人ノ請合ヨキシ此富有ノ者ヲ奉行ヘ不近付ヨシ不
近付シテモ不足ナシ只貪ナル者ヲ救フカヨキシ然ニ
富有ノ者ヲ奢ラセヌハヨシ悪ノアイシラフ事ニテハナキ
法ヲ厳ニ私曲ナキ様ニスヘキシ村里カケノ諸勝負ハ堅ノ
禁シ又百姓ノ隋ナキ様ニスレハセサル者シ仍テ大百姓ニ

役儀ヲ云付猶更無隋スヘシ定役當座役品トアルヘシ
扨又古キ林ハ公儀山或ハ誰カ山或ハ寺社ノ山或ハ
村中ノ山ナトノ分トアル者シ公儀山ハ落葉ヲ
カキ取ハカリニテ下苅ヲモ禁スヘシ主アル山ハ時シ
枝ヲモ切或ハ拂ニ物ニスル事モアリ本末ヲ切事
ハ奉行ヘ断リ差圖ヲ受ヘシ又新林仕立ルハ松
松ハ早クナルニヨリ近年別シテ多シ松山多クナレハ
其雫落テ川ヘ入魚ノ毒ナレハ川魚スクナシト
イヘリ心得有ヘキシ雑木ヲ植テハ落葉ヲ取ハ
フトリ屋シ薪ノ為ニ仕立ルナラハ栗榎欅小猶

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

等交テ植候ヘハ下ニ又萱ナト、生シ木ノ實自
ツカラ生シテシケルシ松ハ松ハカリ余ノ木ナキカヨシ
タトヘハ二町四方宛毎年林立スレハ其時松ノ實植
生シテ三年目ノ内植ヘシ十ケ年過ラ十一年目ニハ
初年ノ林ノ不残切拂其跡ニ又小松ヲ植立レハ
薪ハ不絶シ三尺ニ一本宛植テ二町四方ニハ五万七千
六百本シ十一年過レハ十二歳ノ本シ一本ニ付三四把宛ヤリ
然シハ一年ニ拾七万把余切積シ如此シテ櫸楸等ヲハ
ヨキ薪トシ松ハ下ノ薪トス其外ニモ枝本ハ時ニア
ルニヨリ七万把モアル歟シ漸ク二町ニ七町ノ地アル
トキハ此薪アリ村里ノ裡ニ依テ如此積リヲナス(シ)
但諸木ノ實ヲ蒔立ルニモ荒野ハソタチ遅シ一作リ
シタル跡カ又ハ地ヲ打カヘシ植シハ早クソタツシ扨又
百姓屋敷大小共ニ竹ヲ不持ハ悪シ地ヨリ大竹カ
ラ竹蓧竹ヲ付ヘシ屋ノ辺ニモ少シモ竹アルハ用竹ニ
シテヨキシ又池ノ端川端ナトニ葭ナトアルヨキシ扨
又山端畑端野原ナトニハ桑漆茶等ヲ植(シ)下
ノ地ニハ萩ヲ蒔テヨシ薪トナルシ如此ナル迄モ
心ヲ付(ヘ)シ又高百石ハカリノ地ニ男女共五六人馬十
四五疋有(ル)ヘハ相應ト可云シ然ルニ百人七八十人

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

モアルハ人多クテ不宜或ハ廣キ田畑ヲ人家少ク分
限ニモ不應地ヲ抱置カ云ニ及シテ却テ困窮ノ
所モアリ是等ヲ計リ知ヘキ事ニヨキ様ニ雨降ノトキ内ニテ
蠶飼ヲナスハ其勝手ニヨキ様ニ雨降ノトキ内ニテ
コナシヲスル様ニ雜穀ヲ積置所アル様ニ人ヲ招請
スル所ハ不入ト馬屋ノ下水又ケサル様ニ後ニ溜リヲ
ナシテ取様ニシ第一ニヘヤヲヨクシテ雨水ノ不入様ニ
シ手足ヲ洗フ水ニテモ水溜リヲナシテ溜ル如クスヘシ
又屋敷持モ東南ヲウケ西北ヲフサクハヨシ庭ハ成
程清ノ五穀ヲコナスニ土砂不交様ニスレハ畢
竟手廻シヨキト其外村里ニナクテ不叶品ヲ要
ニ取テイヘハ山林是ハ薪厩屋作リ堰川除等
入ル藪蠶飼蛇籠草苅籠桶ノ輪ニカラミ
等ニ入ル野ハ乾場馬草等ニ入ル茶ハ五穀ノ
外喫ヲ潤スニ用フ但シ一家一日ニ五錢宛ノ茶ヲ
買テモ一年ニ一貫八百文十斬ニ十八貫文ト金子
五兩ノ小家拾斬ニ金五兩ノ年貢ハ多分ノ支
ナリ然ニハ右ノ四品ハ必ス下畑ヲ潰シテモ是非取立
ヘキ支ト扨ハ馬ヲ能飼ヒアツカウヘキト扨第一ハ
酒ノ制禁ヲナスヘシタトヘハ高百石ノ村ノ内ヘ一件ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

付ヲ七十文ノ酒ヲ一日、五件宛買入レハ三百六十日ニテ
十八石代百九六貫文ニテ金子世六両但一両ニ付三貫五
百文ホトシ惣シテ酒ヲ米ニ見レハ酒一件ハ米ニ件ニア
タル一年ノ現米ニ見テ三十六石ヒ此米代ホトノ作得当ル
支有ヘキヤ必ス村里ニ酒作ル近辺ノ百姓ハ酒ヲ多ク
呑テノ勝テ困窮ニ及フヒ諸国多ハ如此一人一日酒一合呑ニ
シテハ一年ニ三石五斗ノ酒ヒ米ニシテ七石ヒ此費幾ク
ソヤ増テ一日ニ二合三合ヲ呑者ハ猶更ヒ故ニ新規ノ酒
賣等ヲ禁スヘキ支ヒ古来ヨリ此制アルニ支ト見ヘテ東
鑑ニモ毎度酒店ヲ制禁其數ヲ定メラルヽ等ノ支

見ヘタリ五人組中於互酒ヲ不呑様ニ連ヒ有メキ支ヒ
此外其国家ノ定法ヲ守リ奉行ヒ百姓等ノ黨ヲ不
組様ニシテ支配スヘシ古来ヨリノ様子ヲ知テナスハ猶更
宜キカ村里ノ困窮ニ及テハ其主ヨリ御貸米ヲ
願フモアリ古ヘ賑(シンキク)恤田給フトヽニ似タリ或ハ古ヘ
奥羽両列等ノ未タ不治節蝦夷ヲ因レト成テ
行ルヽ民年ヲ経テ本国ヘ帰ルニ最前ノ田ハ人ノ
物トナルニヨリ口分田モナキ者等ハ吟味アリテノ
上ニ支賣ナレハ改メテ田ヲ給フヲ浮因田トなし又
立寄所モナキ困窮ノ者ハ下サル、田ヲ惇獨田トなス

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

是等ハ加府ニノ當御代ニ仰付ラレタル非人小屋ノ
如シ其便ルヘキ所ナキ者ニ扶持ヲ給ル誠ニ是王代
ノ御仕置ニモ不恥カ是皆民間ヨリ出ル所ナレハ郡方
ノ所寄テ論ス中ニモ山川土地ノ様子ヲ知リ他国ヘ
出ル間道ヲ委ク知リ馬ノ往来立路カ馬ハ不通牛
ハカリノ道カ牛モ不通ホトノ所カ或ハ隠シ里ノ有
無ヲ知或ハ他国境ニアル森林等ヲ他国ノ者
密ニ来テ盗ミ取ルカラ山廻リニ改メサセ或ハ他領
ト入交ル所ヲ他領ノ者ヘ有ト云談シ此方ノ地ヲ他ノ者ヘ
貸テ作ラナサシムル等ハ此方ニモ地廣クシテ人少ク
或ハ此方貪ラシテ儲金銀ノタメニ地ヲ侵カルヽ等ノ
支ハ急度改ムヘキ山ハ山川ハ川海ハ海野ハ野ニ
テ各殺生ヲナシ鳥或ハ獣ノ皮ヲ取テ交易シ
或ハ産物ヲ細ユシテ他国ヘモ遣ス等ノ品一ニ云尽
難シ此交易往来ニ付テ他国ノ者出入スルニ自然
ハ奸曲ヲ思フノ徒アランカノ計知シ或ハ其者便テ
他国ノ模様ヲモ同支ニアリ郡卿ハ廣キ支ナレハ
古城モアリ要塞ノ地モアリ是等ヲモ計リ知テ自然
ノ支アリモ皆其主ノ利トナルヘキノ心得ヲ專トシテ
百姓ヲ利シ一揆等サクノ一致ノ了簡有ヘキ支シ今

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

云所ハ粗シトイヘ𪜈是ニ基イテ其役タラン者ハ可心得
着シ物ヲ他方ノ妻ハ通シテ知ヘキシ是ヨリ軽キ
雑妻トイヘ𪜈国ニ心ヲ用ルトキハ必ス細妻迄ニ
心付ヘキ妻シ當時ハ沢菓ニ物妻セハシ
クナリテ江州ノ湖水ノ中ノ小魚ニテラ
牧帳ノ如キモノニテ汲取ルニヨリ名物ノ鮒モ
近年ハ小サク成テ殊ニ魚スクナシトいう
江戸ノ産士ノ書タル淡海録ニモ出セリ諸
国モ此如ク鮎ヲ取梁ヲカケ或ハコリノヤナ
ヲカクルカ如キアリ是ハコリヲ妻ヨセニシテ
鮎ノチイサキヲ取ントスルヲ類ニアリ或ハ三四月
ノ水鮎ノチイサキヲ取ユヘ鮎長セス如此ノ類
必ス是ヲ制止スレハトテ魚ノ生スルニハアラサレ
𪜈国家ノ仕置ハ無用ノ費ヲ厭ヲ妻ナリ
鮎大キニ成テ是ヲ取トキハ其責買スル者ノ
タメニモ大キニヨキ妻シ此理ヲ不知者ニハ法ニヨラ
レメテ能様ニスル此所ニ法アル妻シ近クハ賀
府ニテ犀川ノ橋ヨリ上ハ毎年四月朔日ヨリ
七月晦日迄ハ魚ヲ取妻ヲ禁セラル大守川狩御
出ノタメト称セラルル妻元禄ノ初メ比迄此法正シ

カリシ」是ニテ鮎大キニナリ各
ニモ心付ヘキメ小麦ナレ共
不勢方役人モ農耕ノ
百姓擬化不シテ可ナラ事
前ノ段ニ有納方ノ麦ヲ述猶耕業ノ麦ヲ
ニ第一農業ハ立春ノ疾遅ヲ考ヘ六気ノ寒
暑ノ候ヲ勘ヘ其歳ノ様子ニ因テ雲ノ消ルヲ待テ
田ヲ耕スニカヲ尽シ去歳ヨリ蓄ル所ノ種籾ヲ撰
ミ田一段ノ為ニ籾六舛ヲ用意ス春分之候ニ至テ莚
ニ包ミ地ニ浸シ一気十五日之間ヲ歴テ是ヲ取リ上一候

五日ノ間蒸ラシテ其中ノ籾ノ芽ヲ見テ苗代ニ蒔之
三十三日ヲ経テ苗ノ生長ニ依テ立夏之候植田ヲ
苗ヲ植ルニハ莖ヲ以テ一根トシ田一歩横ニ八根縦ニ
六根共ニ六八四十八根ヲ列ス時ニ依テ加ヘテ
立春ヨリ二百十日ニ稲ノ花盛リトス此時ニ風アレハ
大ニ稲ヲ損シテ實リ難シ秋ノ土用ニ到テ稲ヲ苅ル
時春一根ハ莖植シハ四莖ヲ増テ十二莖トナル三十根
ヲ一把トシ十二把ヲ一束トスレハ一段四十八束トナル乾
シ部トス然シテ扱之トキ一莖ノ穂ニ凡籾七十三
粒アリ一根十二莖ノ籾八百六十四籾アリ一把ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

三十根ノ籾二万五千九十二粒ニ一束ノ十二把ノ籾ハ
三十一万十〇二粒ニ一段四十八束ノ籾千四百九十二万
九千九百二十粒ニ是一段實入ル所ノ數ニシテ則
毎歩四万千四百七十二粒是即一株ノ籾ト云ヲ是ヲ
舂(ウス)ニテ半ハニシテ一万千三百四十七粒ノ悉米ヲ去テ
能米五合ト成然ニハ一段之米二石八斗ト十九此當時
ノ上田ノ段米ノ率ニ此内ヲ以テ來年ノ田苗米ノ
餘慶ヲ十ス故ニ中田實數一段ノ米二石五斗ト
スルニ一株ノ米數能米ハ六万二千五百數有ト云ニ一
株六万粒ノ米ニ有之舂種籾一段ニ六株ト積ル一株
毎三万千二百五十粒ニテ六株積テ十八万七千五百粒
ナリ植田一段ノ莖數三百六十歩ニテ十三万八千二百
四十莖ニ種籾四万九千二百十六粒餘ル是一株五合ノ
籾ニ田苗米一株トス此毎歳ノ餘慶ニ右ノ如ク積ル
ハ大概ヲ云ニ此積リヲ以テ見ニ適スルニ此積ヲ根ト
一段ニテハ則草高一石五斗ト云縦
ヒテ大小ノ差別ヲ知ヘシ右ノ日積リモ所ニヨリ次ニ
違速ニアル故ニ委ク云トキハ里方田三百歩一反ニテ
種籾六株程早稲晩稲共ニ平均但四株五株ニテモ
宜キニ戸山方田三百歩一反ニ付種籾七株程深廻リハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

二斗程奥山方田ハ一斗五升程モ入モノニ扱田ノ植付ハ
速ハ所ニヨル扱植付ノ後一番揆二番揆トテスル事ア
リ田植付ハ女一人ニテ一反アタリハ植ルニ田中捺ハ男一人
ニテ二百歩程ハナレド扱一番草取男一人ニテ百五十歩程
二番取ハ一人ニ百七十歩程三番取リハ一人二百歩程ハ
草取ル者ノ所ヨリ五番取迄モスルニ扱里方ヤ山方ノ稲
苅ハ一日ハ男一人ニテ一手ガイノ把百束ハカリ小把ハ三百
束モ苅所アリ或ハ沼田或ハ山田或ハ足場不宜ハ此
積リニナラス又稲ヲ地乾ニスル所ハ朝ヨリ晝迄ノ内
ニ女一人ニテ二百束ホト乾物ニ男一人ニテハ女六人前程

乾モノニ又里方疇ニ積乾ニスル所ハ三束積五束積ニ
ニテ女一人ニテ三段半ホトノ稲ヲ積モノニ但積昏
ニハ四段ホトモ積モノニ里方並ヤ山方ノハサ掛所
ハハサ場ヘ持行ハサニ掛ルハカリヲ女一人ニテ一日ニ
一段ノ稲ヲカクルモノニ物ニヨリテ早ク稲ハ植テヨリ
九十五六日或ハ百日ニテ苅モノニ常ノ早稲ハ植テ
ヨリ百十日百十五日ニテ苅モノニ中稲ハ植テヨリ百二三
十日程ニテ苅モノニ晩稲ハ秋ノ土用ニ入次ニ前ヨリ
苅付大方土用中ニ苅仕廻フニ其稲ノ名モ様ニアリ
計フルニ不遑土地ニ合ト不合時ノ様子次第ナリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

第一ハ地ヲ試ミ知ヘシ谷水ニテ穢出兼ル田ハ水通
シテ堀通シ下ヘ水ヲ抜捨シ上田ニ成土用ヨリ
ナルヘシ冷ル田ヘアツル水ハ日ヲ當テ水通ヲ長ク将ヘ通
ル間ニ水ヲ湲ル心得スレハ實入ヨシ惣シテニヘノ仕様土
地ニ合ト不合ヲ考フヘシ田畠ノ土地ヲ直スハ重キ上ニハ
春不耕丹ニ餘ノ輕キヲ丹ニ置鋤交撥交スル支
次〳〵宛ニテモ年ヲ重スレハ地目直リ上田畠ニナルヘシ
人力ヲ惜ミ手入セサルハ大キナル損シ又大豆ヲ作ル
大豆種山方蕪畑百歩ニ一斗五合程山方里方ニ
種植ニハ畠百歩ニ一斗程根引大豆種畠百歩ニ付
二斗五合程テヨキヘシ大豆ハ春ノ土用前カ土用過半
蒔生前迄ニ蒔植ル土用ノ中ニ蒔植スレハ虫付シ
五ツ葉ニ成ト中ニ草取又蒔ノ土用前ニ草取土ヲカケ
秋ノ土用前ニ引取ハサ乾ニシテ枯テ打シ上ハ百歩ニ三
斗ホト中ハ百歩ニ二斗ホト下ハ百歩ニ五斗ヨリ八九斗
程ヲ取シ蕪畑焼畑ハ初年蕎麥二年目ニ粟三
年目ニ大豆ヲ植ルモノシ右米ト大豆トハ人馬ノ兵粮ノ
大元之ニ依テ其品ヲ有増ニ書之此外農家ノ産物ハ
限リ有ヘカラス善悪ヲ弁利シテ
ニ品ハ必ス有度シ惣シテ地ノ様子ヲ知度ハ第一シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

東高ノ西早キ地ハ早稲満作シ西高ノ東下キ地ハ
晩稲満作シ北高ノ南下キ地ハ上ノ所ニ南高ノ北
下キ地ハ常ニ下作スルモノニ是皆日アメリテ見ルノ考
ナリ
一サカリナル田ハ田一枚ニテ二寸三寸下リノ地形ナレハ
浅田ニ谷田或ハ平ラカナルハ深田アルモノニ用水
多クノ悪水ノ吐口自由ナル上地トスルナリ
背ヒハ下地ニ土ノ性ノ善悪ニ心ヲ付ヘシ常ニ
沼ノ田地ニテモ土ニ子ハリ有テ地ノシコリメル土ハ上ニテモ
ナクメトヘハ灰ニ水ヲカケ丸如クニテモ宜キハ上ニ悪
キハ下ニ又其淤泥乾テ重ハ上ニ悪キカ小石交ノ
ハ下ニ又真土ニ小石交リハ上田ニ然ニ尼其中ニテモ
上中下アリ子ハリ有テ日ニケ子又土ハ上ニ草木迄
モ色能五穀生シテ味ニ吉シ又小石交リラモ子
ハリ次クシテ日ニクルハ中ニ万ツノ草木植物等迄
中ニ又小石ト真土ト思ヒ不合ハヤセタル地ハ早ク
日ニクルニヘ生ル物下ニ真土ニ小石交リノ地ハヨヤシ
キノモノニ又白真土上田ニ此内ニモ品々アリ子ハ
リ能日ニ強ク土ノ色能ハ上地ニ竹木モ快ク
生シテ枝次ナシ五穀生シテ解多ク味能シ
又黒真土ニ色々アリシヤカウ色ノ上地トスル一切ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

草木生シテ快シ五穀色白クシテ味ニ吉竹木カ
能節次ナリ生スルヿ是ニ絡ル、田地アリ川端ナト
年ゝコヽヲ押掛砂交リノ田地ニ上田アリ此土ハ本
黒真土ヨリヨハリ次ニシテ地、ニラス地深キ所ハ無
類ノ上田多シ畑ニハ午房大根ヲ作ルヘシ所ニヨリ
麥作ハ出来過テ解ノ次キ麦アリ小石交リモ同
麦ナリ又何ホト土能真土ニテモ古ヘ河原ノ地ニテ
田畑モ底一二尺下ニ大石多ク浅キ所ハ下田ヿ必ス
水ヲカケテモ所ゝ穴明キ底ヘ水ヲ引左ナクテモ
コヤシ過レハ稲枯レコヤシ薄ケレハ稲悪シ年ゝヤ

トヒ土ヲ餘所ヨリ取入レハ何ホトモ土色能ナルトテモ
上田ノ如ク物成アルヘカラス惣テ田畑ノ上中下ハ七段
ニモ八段ニモ可心得田ニ上中下々々畑ニ上中下トスレハ七段
也畑ニモ下ゝアレハ八段ヿ如此細カニ心ヲ付ヘキ麦ナリ
扨百姓ハ常ゝ油断ナク無隙様ニスル麦百姓ノ
為ニ春ハ油断スルユヘ盗人等入モノニ正月九日以前
ニ田畠荒間無之様ニト下知ヲ加ヘ隠田無之様ニ新
田場ニ可然地ヲ案内スヘシト申付堰水大切ニシ大
小百姓高下ナキ様ニ作場ヘ牛馬ヲ不放様ニ一人百姓
ナトノ相煩ノ麦アラハ他カヲ加ヘ耕作仕付サセ麥作

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

出来ノ以後貢成ノ年貢急度申渡納所セ畑年
貢七月以前ニ三分一ハ取立ル心得畑ニハ作得多キ物ナル
故ニ二分ノ一ニ取立ヘシ秋ノ年貢嚴シク取立ルカヨシ秋初
ヨリ云付ケハ百姓油断シテ五穀雜穀ムサト散スヨリ
嚴シク云付シハ不散シ初秋ニ役人ヲ在ヽヘ大検見ヨ
シ一遍ノ見分小検見ハ一村ノ内ニテモ作ノ善悪ヲ分テ知ヽ
前年閏月アレハ検見ハ五六日モ早キモノシ検見朝ノ間ハ
露ノ含ミワラノツヤモ能穂首モ頃キ實入能見エル
雨降ニハ猶更ノ日和ヨキ節晝カ晩ニテ可考シ苅田ヲ
見ルニハ稲ノコホレ多キハ上作シ少キハ下作苅カブ

平ニシテ奇麗ナルハ土作シ又常ニ見覚ヘシ所アラハ
何レノ郡何レノ村ノ辺ハ一カブニワラ何本何尺ニ幾カフ
穂ノ長サ一穂ノ粒數モ引競ヘテ心付ヘシ粒ニモ
筋有テ溝浅キハ上作深キハ下作シ若又ワラノ
隠サハ上作ト知ヘシワラノ小サキヲ云ルモノヽ又惣シテ
筒年未進イタサセテハ毎年不絶モノシ鉾村ノ例
成ヘク急度可取立若又其先年ノ未進多クアル考
ヘシ百姓ノ奢強キカ寛前代官ノ私曲カ高免ナルカ
ヲ見テ實ニ潰レ百姓多クハ又心得有ヘシ又新田アラハ取
高ハ不付共何レノ年ト帳ニシルシ置三ヶ年過テ次第

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

免ヲ付次第ニ免ヲ増或ハ所ニヨリ五ヶ年ニテ免ヲ付
ルモアルヘシ或ハ古荒ノ田再免モ同断シ年貢取立モ能
リニ嚴シクシテハ又害ヲ生ス 嚴キハ表ニシテ内意ハ
百姓勝手ノメメニ嚴シクスルノ心シ下民ハ我作ル田ニ何程
ノ米出来シテ何ホト調所スルトヲ支ヲサヘ不弁者多キ
ユヘ教ヘテ不埒ナキヲ要トスルヘシ如此スレハ却テ百姓成立シ
物ヲ百姓ノ物ヲナス支前方々ニ用意スル様ニヲ付
ヘキ〻トヘハ鎌鍬ノ又モ冬中ニ用意スルカ如キ
シ物ヲ百姓ハ物ノ積リテ不安内ナル者ナレハ教ヘテ
成立様ニスル支第一シ江戸近辺ノ地ハ一段ニ付テ
永樂五貫七貫或ハ拾両納所ノ地モアリ或ハ鬼灯（ホウヅキ）
ヲ作リ草花ヲ作テモ利徳アリトシ然レハ一段ニ三百
文ノ地ハ何ヲナシテモ徳分有シ江戸ヘ其日帰リニスル所ハ
存ノ外銭ヲ取請品手廻シ多ナレ共富有ノ者スク
ナノ所ニヨリ作リ取ニスル者モアレ共貪ナルアリ又小給
人入込ノ知行ニテ然モ日損場ニテ十ヶ年ノ内ハ必ス
三四年ハ不作ニテ小役ノカヽリ物多ク出シ取方ハ
次ナケレ共困窮ナカラモ百姓ヲ立ルアリトヲ是
皆奢ト不奢ト。悋ノト不悋ニヨリ又江戸ヨリ二三
里六七里ノ辺ノ荒地山畑ナトニテ下シ畑ノ實入ナ

キ悪地ニ野老山ノ芋ゼウガメクガワキコンニヤク
牛房子フカ等ノ類ヲ作リ夫食ノ物ケトシ
交易ヲモナスコトゾ是等ハ土地ニ依テノ能考ヘタリ
又関東ノ地形水入ノ田ハ常ノ苗ハ水ニ負ル故
赤米ヲ作ルニ下総国布河村トゾ水入ノ場前
前赤米メリシヲ慶安ノ比ヨリ白米上米ノ苗ヲ
初テ植念ヲ入テ耕作シ毎年如此シテハ今ハ上ミ米
ニテ味能美濃尾張米ニ同シク近国ノ上米トゾ是
土地ニ性ヲ入ル故ト又江戸ヨリ五六里北ニ一村アリ此近
辺松林多ク常ハ松葉ヲ集メ薪トシ初秋ニ成ハ
村ミノ童子松原ノ初茸ヲ取在所ニテ賣ヲ江戸ノ
商人来テ買之一秋ニ金三百両ホト賣トゾ是
等少シノ変ナカラ大キナル販ヒトナルコト又関東ノ
地面ハ土性クシテ風吹ハ土ヲ吹立作物ノ根顕ハシ
實入弱シテ風除ニ畑ノ廻リニ嶋ヲツキ其外
ツケモナキヲ植ルコト心得アル村ミハ桑ヲ植テ養蚕
ノ年貢ヲ濟ス桑ハ初養女童子ノ手ニテ変
添モノニテ蚕飼ヲナストゾ如此同シ変モ仕様ニ
依テ徳分アリ又相州小田原ノ近所ニ桑ヲ作ル
百性有之(トウノサハ)壇澤湯本(ユモト)ノ町ニテ桑ノシユモノ杖ヲニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

三本賣ヲ見テ在町ヘ歸リ分別シテ三四年ノ内
シユモク杖二三百本拵彼町ヘ出シ賣テ身上ヲ持
上ル作リ様ハ桑ノ木ノ枝ヲ引メハメ皆土ニ埋
メ其枝ヨリ春早ク芽ヲ出シ三四年過大方杖ノ
太サナリシトキ堀出シ一本ニテシユモク
枝四五本宛モ出ルトシ今ハ小田原近辺ニ見習テ多ク
作リ出スト云是ニハ不限何ニモ了簡有ヘキ事ニ
又駿州ノ内ニ高千石ノ村アリ草苅場モナク本ヨリ
野山ナクシテ薪ナケレハ下田ヲ潰シ萩種ヲ下シ
一度植シニ年ヽト繁リ毎年苅取雜穀ノカラニ
交テ薪ニ用ル本田ヲ潰スハ禁止トイヘ共ヨリ如
此莫威ノ年貢不足故一村ノ男女共莚ヲ織習
ヒ鍛練シテ二人相組二人ハヲサヲ取一人指子ノサシ
夜ヘカケテ十三枚程宛織出シ賣テ莫成ノ年
貢ヲ拵ル一村ノワラ不足ニテ他村ノワラ迄買取ト云ヽ
如此ノ様子ヲ知ヘキ是等ノ咄江戸御代官頭
ノ伊奈家ニ於テ沙汰スル所ニ然レ共夫ニモ時節アル
ヘシ鬼灯シユモノ杖ノ如キハ賣用ニ非ス桑莚ノ
如キハ賣用ニ當時ニ詮議アル事ト云傳ルハ煙
草ハ上田ヲ費シ人ノ思ニ付テ一度是ヲ吸者ハ忘シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

兼ル火ノ用心ノ害アリ カタ〳〵悪キトテノ
天下御制止ノ御掟毎〻タリシカ
近年考ルトキハ煙草ハ地ノ塩
ヨリ煙草畑ノ跡ハ土ノ性枯テ外ノ作物ヲナスニ
用ヒ難シトイヘ𪜈煙草ノ茎節
三四年ヲ経レハ塩硝ノ出ル𪜈ノ
儒モ有トゾニテ近年ノ御制止ノ 沙汰ナシト
ゾ、惣シテ百姓等是ヲ他ヨリ求ノ費多シ一
向ニ其村ニ入ホトハ作ラセテモ可ナラン乎又近年時ヤ
花西瓜等ハ無用ノ物ニ唯米大豆等ヲ軍用ノ

物ニ替テ作ル物ヲハ堅ク制禁シ真外ノ物ハ時ニ
随テ百姓ノ成立ヲ教ユヘキニ百姓ノ常ニ食スル
ハ粗キ百姓ノ食ホト粗シ粮ヲ摺(スル)トキ先ノ毛ノ落
メル或ハ悪米ノ押ワレメルヲニカ米トゾ是等ヲ交
テユリゴトゾ團子(ダンス)ニテ食スルハ未メ上食ニ来ヲ
箕ニテヒルトキ用ニ不立粗ノ塵交リタワノ内ヲ又撰
テ歯ニカヽル物ヲメウシトゾ是ヲモ不捨シテ食スルナ
リ扨ハ菜大根ノ如キ野菜ハ上ニテ何ニテ取集メ
味噌汁ニテ食スルトキ子ハリノメニ雑穀ノ粉ヲ次〻
加ヘテ食スル是モ中分ニ奥山ノ者ナトハ五穀ノ名ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

久ニ童子ハ不知所モアリテ禽獣等ヲ食スル心アリ海辺
ノ者ハ魚鼈ヲ喰フカ如キアリ然レ共當時モ賀越
能ノ三州等ニテハ高百石共持大百姓ハ上下ノ男女四
十人ノ内外馬ノ二ツ三ツモ所持ス麁キレ常ニ米ハカリハ不食トイヘ冬ノ皆漆仕廻ル
跡ニ現米ノ五十俵ホトモ不蓄トキハ下人働ニ倦
テ仕ニ難シトシ其米アレハ是ヲ心ノ頼ニ思ヒテ力
役ヲ勤ムルトシ依之其人馬高麁シテ作食トラシテ
藏ヨリ出シテ渡ス支
藏ヘ納メ春耕ノ節ニ及ンテ
シ此作食ヲ納ルニ百姓困窮スレハアラヌ物ヲ俵ヘ詰ルトシ

右ニ大百姓ノ作食ハ尤横ノ支ヲナセハ下人必スカラ
落スユヘ是モ難儀ヲナスニヨリタトヘ勝手ヨキ百姓
ニテモ常ニ食ヲ粗麁ニシテ作食ヲ重ニスルハヨキ百
姓ノナス所ト同シ百姓トイヘ尺違ヒアル支ハ前ニ云如ク
一歩ニ五合ノ米ヲ取トキハ三百歩一反ニテ一石五斗ト
免四ツニ納所スレハ六斗ヲ出シテ九斗ヲ私得トス
是其適シ若五ツノ免ニテ七斗五舛ヲ出スノ積リ
ニテハ百姓ノ難儀ト或ハ十歩ニ常ニハ九舛ヲ取ノ
上田ハ一反ニテ二石七斗ト此内免五ツニテ納所スレハ七斗
五舛ヲ出シ私得米二石ホトナシ尺口米アリ走米走

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

銀アリカタ〳〵私得ハ薄ク十ル近年ノ受作ナトラナス
者共ハ一歩ニ九合ヲ取地ニテモ七合ト約シテ受作ラナシ
一反ニテ六斗ヲ受作ノ者ノ作得トス然レハ田地ノ本主
ノ百姓ハ二石一斗ヲ得テ此内五ツノ免ナレハ口米モニハ斗
程ヲ出スニヨリ全ク私得米ハ一石三斗トナルカ如キ味ニ
モアリ若不作ニテ一歩九合ヲ取ノ地ニ七合ナラテハ不出来
年モ上ヨリノ収納免ハ寛有ナキヨリ受作ラナス
者ノ倒レト成カ如シ如此ノ上田ニテ免早キヲサエ
如此下田高免ノ地ノ難儀ヲ知ヘシ然レモ地面如此ノ余
慶ナクテハ百姓ハ不立ト又上ヘ豊年ノ時ハ積リモ

ナラサルホト多ク取リ有テ一歩一斗モ其余モアル亥
也ト云ヘ如此ナクテハ受作ノ者ハ立難シ殊ニ近頃ヨ
リノ撿地ハ揮ツリテ一段三百歩ト云ノ内ニテ畔(アゼ)モ
畝(ウネ)モアル亥ナレハ地面必ス全ク苗ヲ植ルニモアラス
是ニテ取所又吹シ依之疇(アゼ)ヲ余リニ細クスレハ人モ
踏ハツシテ落或ハ畔狭クシテ牛馬行違フニ踏
落セハ植タル田畑ヲ損サシ却テ損トナル此理ヲモ
ヨリ百姓合点ス心得アル(キ)ヘシ故ニ一村ノ内ニテモロヲ
聞着ニ教(オシ)ヘテナサス(ン)ヘシ但江戸伊奈家ノ習アリトヘ
ハ口ヲ聞百姓或ハ富有ノ百姓ハ其村里ノ用ニ立ト

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

イヘヒ是ヲ近付シハ自フガラ顯ル出来シ或ハ金銀
ヲ借用ナトシテノハ余儀ナク彼カ黨ニヒカレ或ハ音物等
初メハ我産物ノ些キ野菜等ヲ持参スルヨリ不取
トテモト思ヒテ取トキハ下役人ノ私曲ノ端トナリ後ニ
大キニ害ヲ生スルトシ唯不親不馴ニテ支ヲ弁スル
百姓ノ奉行ノ前ヘ出ルニハ服差ヲモサヽセス顔モア
ケサル様ニ仕ナスヲヨシトス顔ヲ見レハ人情ニテハヤ
顯贔不顯贔ノ出来ルモノト禁シメヲ云トシ
是ヨリ真理ニ叶フカ右ノ品ニヨリ弁ヘテ百姓擬作
ヲ正直ニスルトキハ軍用ノ實ニモ徹スヘキ

検地方役人ヲ箇の事
前ニ委ク田地ノ間数ノ支ハ述タリ猶是ヲ云ニ
上代ハ一歩五尺トス但大ノ尺トテ今ノ一尺ニすヲ尺ト
ス共ニ五尺ハ今ハ六尺シ中古ハ一歩六尺五寸ノ掃
ヲ以テス是上代ハ地ノ余慶多アルベシ六尺五寸掃
ニテ一歩トシ三百六十歩一段トス定ルヲ當世ニハ普縄
ト云近クハ越中等昔縄シ加刕能刕等ハ木村
常陸検地ニテ六尺三寸掃三百歩一段ト是ニ類
シテ諸国ヲ知ヘシ但上代ノ俗ノ国モ粗アリト云云
扨加能越三刕ノ如キハ新検地アルトキハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

二間五寸ノ棹（但一丈二尺ヲ以テ
五寸ノ棹トス）以テ其一棹々々ノ境ヲ隔ツ是ニテ二間六寸
ト六尺三寸一歩ノ法ニ叶フトス又関東辺當時江戸
ヨリノ歩棹ノ長サハ一丈二尺ニ目ヲモルト扱古ヘヨリ
詰リメルコト竿ハ一尺宛ニ
竿ノ打様百姓共頭賂ヲ
取得テ竿ヲラトラセテ
ラトラセテ打チ、ムルノ私曲
ハ竿ヲ下ニ置テ境ノ板ヲ隔テ其次ヲ打出スト
其サヘ偶ニハ打様ノ加減ヲナス者モアリトスル

メトヘハ溝堀或ハ水ノ溜リ或ハ大小ノ道ヲ不択ニ
町反ヲ打テ右ノ品々ヲ別ニ幅何程ニ長ヲ何程
トシテノ引高シ其引様ニテ幅廣キ所ニテスルト狭
キ所ニテスルトニ私曲アリ中分ヲ用ルヲ要トス或ハ
川原無作ノ地ニテモ町反ニ結フハ此地村境ニ有
トキハ双方ヨリ竿フニヨリ一方ヘ寄テ高結ヒ此ヽ
トキ免相ニ心得私曲ヲナス者アリトスル中道ヲ
ナスヘキ哉ハ勿論シ田畑何レニテモ竪横ニ竿ニ打ヘシ
但竪ヲウタセ其中分ヲ横ニ打シ是非ニ竿ニ
成難ノハ其歩ツメヲナシテ増歩ニスヘキナリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

又縄ニテ不打シテ不叶場ハ竹縄吉山畑ノ検地ハ登
リニ打テハ歩積多ク成ル下リニ打テハ吉必ス山畠
ハ見分ニ積ル哉ナカレ大ニ相違アルヘシ道ハセハク打
ツメタルハ悪シ緩ト打タルカヨシ竿ヲ打トキ
上中下ノ地ヲ心覚スルニ作リ字ヲ用ユ好シキ百姓ハ
脇ヨリ見ヲ云ト成又竿打セノトキ深田ヘモ踏
込地心ヲ了簡スヘシ竿取百姓ニ頼ニシ依怙アルモ
ノシ殊ニ横竿ノトキハ堅一遍リ済メル跡ナレハ
奉行ノ油断アリ必ス竪横共ニ少シ竿取ニ目ヲ
離スヘカラス其外雨降風吹モノ上ノ検地違アルヘシ心

得ニ油断有ヘカラス惣テ田畑ニ地面狭クテモ其外ニ
荒間或ハ野山ナト有テ次第ニ広クナルヘキ地アリ又今
ハ閑キテモ山メレ水損ナトニテ次第ニ狭クナルヘキノ田
地モ可有之當分上地ニテモ林藪ナトニソサレ或ハ引
法ニナル地ナト可有之ム中下ノ地ニテモ年ヲ追テ
上ニ成所モ可有之進退心ヲ付ヘシ又検地ノ節常
水損ノ村ハ日損時ニ上田ト見ヘ常ニ日損ノ村ハ雨
降ノシケキ時上田ト見ユル哉有之數年見覚ル人或
切着ハ心得アリ初心者モ心ヲ付レハ知ル道アルヘシ扱又
塩濱ノ検地ノ哉関東辺ナトハ下ノ程カタキ所ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

上濱ト定ム下ノカタキ所ニテ塩多ク出来スルナリ
下総国行徳塩濱ノ検地ノ時伊奈家ノ手代
功者出テ歩入ノ竿ヲ落シカケ竿尻ノ躍リ
ニテ上中下ノ定メ今ニ至テ違ニ無之トイヘリ
塩濱ノ中ヘ真水差入ハ悪シトシ惣テ微細ニ歩
ヲ積シトセハ業法縄矩ノ曲尺ニアリ更ニ知ヘキシ扱
又正月三ケ日過ハ早堤川除堰等ノ普請并年
中ノ汝法ヲ窺ムヘシ用水ノ手遣ヲ見テ不足ノ
地ヘハ井堀ヲホリ又悪水ハキカ子ルハ落ス堀カ或
川除堤カ普請ヲスヘシ又堰シテ取水ハ水口水門次

心水ノ用ナキ時ハ戸ヲタツル水門前ヲ萱羽口ニ
掛ルヲ袖羽口トス溜井ニ悪水落シノ堀ヲホルヘシ
又堤川除弱手ノ所ハ出シ堤ヲ築クヘシ出堤ハ
川上川下ヘセス横ニ直ニシタルカヨシハ子出シ請出シ
ヲ心得テ水ニシナク心得有ヘシ又川ヨリ取用水石
川ナトハ年々出水ニ瀬替ル川口ヲ取ニ心得有
ヘシ又川除堤ハ安シノ蛇穴アリ尼出水ニ支ヨリ
切レ変アリ年々見分弱手ヲ修理スヘシ又用水
ハ早苗前後ハ百姓我侭ニテ我方ヘハカリ水ヲ取
ト論手負ナト出来シテモ身ヲ捨テ拳ヲ着ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

テ後ハ郡中ヘ響キ毎用ノ隙ヲ費スヿ至テ国ノ
乱レ民成シ依之其時分ハ番ヲ付當分ニカスヘキ
又堀ノ長サヲ方時ハ曲リナリニ折ヘシ直ニシテハ
間數大キニ違フ〻シ清水ノ流レ所ハ必ス川筋
ヲ廻スヘシ出水ノトキ水損アリ又川ヲ築切変ヲ
アルヘシ兩方ヨリ築ク初メヲフトク中ヲ細クシ
堤普請ニ川ヲ築切テ水ヲ左右ヘ取分ルナリ
ドウエイ築切レシ能スレハ十ケ年モツヽクシ
其仕様菅羽口ニ仕立ん吉始ハ後カ小橋カ水ニ強
キ木ヲ以テ一重シニ其ニハ竹ヲナラヘテヨシ扱
枝木ニテモ築立夫ヨリ菅ニテ仕立レシ萱ハ羽口ヲ
揃ヘテ横ニ竹ニテ押フチヲアメルシ杭ヲ打テハメ〻
ラス竹ニテ仕立レシ水口ハ必ス萱羽口シ水ヨリ三尺
モ高クスルシ竹ヤラニ一間ホトヲ、上ト下トニケ所惜
ニシニカヘ柱モ杭ヲ強クオシ竹ハシケクナラヘテ
ヨシ年〻竹ヲアテ添ヘシ水出テ損スルニハ人家ノ
屋ヲ萱ナクレ取テ急ニ羽口ヲ塞ケヘシ人家ハ又新シ
萱ヲ遣スヘシ萱羽口ハ伊奈家ノ傳シ委クハ功
者ニ尋問ヘシ水ニソナヒテ持シ又石原ニ杭ヲ打ハ
根入カタ〻シ松ノ木ノ杭ハ根入ヨシトシ又普請場

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

人足積ヲナシ不申明トキハ幾人ニテモ丁場ヲ渡シ切ニ好ミヲ定メテカスヘシ情ヲ出ス者ハ惣テノ普請場ハ奉行ハ成程嚴シク可申付奉行大方ナレハ百姓油断ニテ日數ヲ送リ耕作ヲ怠リテ諸支費多シハケシキハ却テ百姓ノ隙明シ扱普請ノ奉行次而々々毎年隠田穿鑿有ヘシ百姓ハ遠慮シテ不云者ハ又新ニ用水カケ或ハノホリ或ハ落シ堀ナト普請ハ雨ノ時分其村ノ水ハキ川流ニテ地形ノ高下聞届見分シテ水モリ勾倍ヲ合魚ノ上ニ取付ヘシ田畑ヲツフシテ成就セスハ不埒ニ用水ノカケ

堀ハ浅ク廣キヨシ若昔ヨリ狭クハ吹深クシテ落スヘシ他所ヨリ取ル用水ハ其所村ノ差一ノ高キ所ヘ引積リ吉高キ所ヘカヽラス水ハ用ニカメシ惣シテ水ヲ取ル水通ニ西ヨリ東背ノ南ヘハ水口三寸ニシテモ次シ高キ方ヘハ水不掛シ東ヨリ西南ヨリ北ヘハ水口一寸ニテモヨノ水カヽルシ是西北ハ陰ノ方同気相求ノテ水ヨリカヽルト百姓居屋敷ノ堀ニハ勿論冬ニテモ水ヲ入置ヘシ大変ノタメ又ハ冬水アル所ハ春旱氷ヲヨリ持トシ天下ノ饑饉ハ古ヘヨリ日損多シ水損ニハ無之然ハ用水ノ地普請ハ油断有ヘシ

也如此ノ品ニヲ勘弁スヘキ其上小分ノ利アリト
イフ共秣ノ飼場モナク或ハ人ノ屯スヘキ地モナク
或ハ要塞ノ地ヲ穿チ或ハ船手寄ヲ断或ハ
川崩山崩ニナルヘキヲ不」厭或ハ。普請人足入用
莫大ニテ其用不定或ハ古キ神霊ノ地ヲ荒
シ或ハ古キ森林ヲ切盡スヘキ等ハ却テ害シ其
害ヲ計ルハ軍用ノ實メルヘキ事ニ非ス
代官方差免ノ人ヘキ事ニ非ス
ヨク考ヘ慥ニ極メ或ハ折ヲ
見テ立ヘキ事ニ非ス

代官善悪ノ様子ハ有増ニ前ニ述之タリ猶ヲト
キハ第一藏所ノ念ヲ入ヘシ火ノ用心宜キ地ノ堅
固ナルハ不及云濕気深キ所ハ悪シ藏近辺
水付アル所ニ蔵ノ雨漏不」入様
年々心ヲ付盗人ノ用心等ハ皆常ノ作法
シ且其藏所船手寄アルヲ
ハ川下ヨリ以テ通ス川端近ク藏ヨリ間アレハ近クハ
人足持又遠クハ馬ニテ運ヲ其用調テ早キニ
利アリ収納ノ。ナス時米ノ吟味ヲナスハ不及
云ニ依ヲモ念入サレハ取扱ニ不宜其納米ノ節

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

下役人私曲ヲナシテ外国不足カ悪米ヲ入ルトキ
ハ蔵ヨリ出スノ節計リ立ノ役人外月等ノ妻ニ
及テ欠米多ク代官ノ私曲トナルシ或ハ大坂廻シ米
等ノ時圖俵カ或ハ貫目廻シニ不足アレハ畢竟
其主ノ損トナル是等ノ役人ハ定役當座役トモニ
油断有ヘカラス其委キ妻ハ常支ノ諸用ナレハ今
更此所ニ論スルニ非ス惣シテ所々ノ蓄米ハ
品ミアル妻ニ第一ハ兵粮米ノ積蓄シ其内ノ
宜ヲ米ニテナクハ久敷ハ置難シ第二ハ常支ノ
道中ノ不時入用賓客ノ設ケ等ノメメノ積蓄

第三ハ国中一年ノ食ニアツ
品ハ中花本朝古来ヨリ
ノ米三年五年ヲ置トキハ不宜ニヨリ當時ノ治国
ハ三年廻リ積替ルシ其分量ヲナシテ猶餘リ
アルトキハ二年米ヲモ加ヘテ諸国ヨリ大坂或ハ江
戸ヘ廻船シテ人ノ多キ所ノ飯米ニスル妻天下
ノ掟シ其廻船ヲナスニ付テ出船所ヘ仮奉行ヲ
遣シ大坂船或ハ地船ヲ集メテ積ニモ品ミノ作法
様子是又常妻ニテ今更不論之然ルニ賀府ニ
於テ御領国ノ廻船米ヲ大坂江戸ヘ着岸迄ノ間

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

諸灘ニ於テ破船風波ノ難ニ逢事アルニヨリ其裁
許ノメトシテ　利常公御代ヨリ近年（但宝永年間迄）ニテ諸
国ヘ陸廻リト号シテ与力ノ士ヲ遣ハサル越前ノ三
国同敦賀但馬ノ諸寄（モロヨセ）石見ノ渭（イ）津長列ノ
瀬戸崎同下ノ関周防賀（カ）室播列室津等或ハ
江戸ヨリ伊豆ノ下田ヘモ行シ是等ノ所ニヘ春廻船
持分ヨリ大坂着岸ノ左右有之迄其所ニ在留ス
今ハ止メルハ其人ニノ丹不心得ナル者ハ其先ニテ
却テ害モアル事ニテカ止タリ又心得宜キ者ハ国
国ノ風ヲモ聞テ御為ニ成タル事モ多シトナリ

人ヲ撰テ不絶遣シ置モ宜シカルヘキ事ナルカ大坂
江戸等ニテハ町人ノ蔵宿多ク諸大名ノ米
ヲ預リシ又蔵屋敷廣キハ蔵ヲ建テ納メ時
節ヲ見テ賣拂フ事ハ同年タリ是等シヲ以テ
知ヘシ當時治世ニヘ廻船モ蔵宿米モ次シモ別條
ナキ戦国ニハ和漕共ニ海上ヲ通リ廻船ノ唯
ハ不通奪取ヨリ中古近代海賊ノ称アリ
或ハ官庫ノ米ヲモ押領スルニヨリ東鑑等
ニモ是ヲ禁メラレタル事多シ若同敷事ア
ランニハ他ノ物ト十九事ヲ懲ムヘシ故ニ右ニ云陸廻リ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ士ヲ毎年諸国ヘ遣ハサレ其所ノ役人或ハ浦方
ノ頭ノ立メル所ノ者ヘモ下サル物等有テ親ミア
ルニ似タリ必ス是ニテ利アル（キニハアラサレ）ド万一右ニ
云如キ儀更アリテモ次ニハ其親ミニ依テ遇船
ニ虚更ナキノ味ニ有（キ更ニ此所ヲ分別セル
者ノ撰テ遣ストキハ如此ノ利アランカ武家ニ
ヨル者必ス更ノ不機ニ先立テ其宜キヲ制スルノ
機ナクハ如何ン其職タラン人ハ推ルヘキ更シ惣テ
自国所ノ藏ノ善悪ヲモ知ヘキシ近クトキハ
賀府ニ総メ心藏シハ御収納本藏賀州分ノ

能美石川河北三郡ニテ両堂形宮腰小松安宅
今江本吉ヘ越中分砺波射水両郡ニテ
小矢部高岡吉久城端氷見伏木能町ヘ
同列新川郡ニテ東岩瀬奥津泊町ヘ能登
分羽咋鹿嶋両郡ニテ所口今濱塵濱笠師
田鶴濱大町金丸神代川尻富木野崎ナリ
珠洲鳳至両郡ニテ宇出津輪嶋中居道下
飯田時国鉢地ヘ以上九ケ所ヘ又中出藏
能美石河河北三郡ニテ寺井松任野ヘ市
鉢森下砺波射水両郡ニテ福岡戸出中田上清水

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

鴨嶋福光横田立野佐和野新川郡ニテ横山石田
滑川水橋芦峅境羽喰鹿嶋珠洲風鳳至四郡
ニテ熊木大澤皆月小木鵜飼波並大谷乙ヶ崎
松波小田屋甲鵜川立壁(タチカベ)蛸嶋正院已上此六ヶ所
ニ此外江尻海津今津ノ御領ノ米ハ大津ノ御
蔵ニ入ル如此散在ノ蔵米ナレハ年々ノ豊凶ト其
所ノ耕作ノ出来善悪ニ依テ多少ノ違アルヘキナレハ積蓄米
ノ好嫌ヲ計リテ其役筋ニノ司ル所ヘ示談有ヘキ
是ヲ統司ルノ役人ハ所ニ遠近通塞ヲ計ツテ
其蓄米ヲナス(キハ賑救シ軍用ノ積蓄ハ馬ノ
飼領迄ニモ心ヲ付ルハ猶以ナルヘシ或ハ家中ノ諸侍
ノ知行米所ニノ蔵宿多キ内同所ニテモ蔵ノ善悪
アリ其米ヲ預ケル侍ノ様子ニ依テ善悪心ニ有来ル
トイヘ(モ悪キ蔵宿ハ預リ米ニアヤラナス故ナレハ急
度其役筋ヨリ改ムヘキ事ナレ(モ殊ニ蔵宿モ百姓ヲハ
厳シク米ノ吟味シテ納メ其ヲ已レカ利徳ニ賣捌
悪米ヲ給人ヘ渡ス族ハ不及云(モ宜シ若又蔵宿
ノ百姓ヲ至極ニ憐愍シ農家ニ馴合給人ノ手
前モヨリ米買ノ手前モ宜ク奉行人ノ前モ私曲ナク
残ル所ナクシテ日ニ富テ増者ハ内外ニ共ニアシキ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

裏少シモナシトイヘドモ其府ヲ離レテ一在所ノ中ニ
在テ如此ノ富榮ヲナス者ハ天竺ニテモ長者ノ如
ク中花ニテモ大富ノ者ノ畢竟一方ノ一揆大將ト成
タル例モアリ日本ニテモ王代ノ農兵ノ長トシテ
一家ヲ起ス者多カリシカ如ノ害ヲ生ル處アリ
唯ニ家富町人ハ害アリテモ大キナル處ナシ農ニ
因テノ富ヲ貴フスル者ハ其拠アル處ナレハ其機
ヲ察知シテ年ノ老若其着ノ行跡并才気質
好ノ様子ヲモ計察シテ代替リカ或ハ役儀ヲ云
付テ身過ノ様子ヲ改メサセ農家ノ親ニノ自

然ニ離レンカ如クスヘキ無理ニシテハ離レ難ノ急
ニ及テ其證拠明朝ノ未ノ季嚴カ乱ヲ起シメ
ン如ノナラン勿論メトヘテ警ヘカメキ處ナカラモ三
略曰奪其威廢其權云ヘリ或ハ夫人衆ニ令ノ
而不可卒離權威一與而不可卒移云ヘリ
或ハ弱之以位奪之以國是謂覇者之略
云ヘリ此心ハ廣大ノ儀ナレ共狂ニ處ニ用ヲモ知
ヘシ百姓ノ狂キ者ヲ防御モ麁ノルノ威權ヲ
村里ノ間ニ奮フ者ヲ奪ノ仕様ハ人ノ思ヒ
寄タルヲ卒ニハ離レ難タク權威モ卒ニ離レ難

故ニ何ソ無隔定役ナト、云付レハ位ニハ上リ
タルヽ或ハ所ヲ替レヽ或ハ所ヲ不易トモ
其一所ニ在留スル支不叶役儀等ナレハ同支
ヽ爰ニテ近郷ノ下民トカラ自ツカラ疎クナルノ
心得ナルヘシ兵家ニヨル者必ス治ニ乱ヲ忘ルヘ
カラス下民ニ権ヲトラルヽカラス故ニ支長シ
トイヘヽ尼論之
扨方役人ハ国家治乱ノ根元ナレハ国ヽ
ノ様子地利ヲ生産ノ仕方ヲモ知
上下ノ親疎ヲ弁ヘ
前ニ段ヽ述ル通シトイヘヽ尼猶云ト牛ハ和漢尼ニ
治世久シケレハ上ハ奢ヲ極メ下民ト遠クナルニ
ヨリ是ニ付タル侍共ナレハ弥下民ト疎ニ農家ハ廣
キ支ナレハ其内ニテ才智アル者自然ト權威ア
ハ下民ト親シ其ヲ御スル役人モ下民ト疎キ侍ノ
ナス所ナルユヘ根元ヲ忘レテ無理ナル仕置アレハ百
姓共ハ無分別ナルニヨリ當ヲ組テ一揆ノ如ク
ナル支多シ又餘リニ寛ニシテ嚴ナル法モナケレハ
狂キ愚ナル民ハ次第ニ困窮シ大百姓富有ノ
者ノ仕度侈ニナル支前ヽニモ委ク述フメトヘ治リ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ルカ如クニテモ不治ニ同シキアリ或ハ緩ヤカ過シハ民
間ニ手ヲ空フシテ日ヲ送ル者多ク盗賊ノ類ニ
ハサマリテ不知カ如シ或ハ魚鳥産物ヲ初メ
空ノ座ヲ敷テ其(交カ)夫易ニ利潤ヲ得ル支幾
所カアルニヨリ其初メ下直ノ物モ段々ニ利ヲ取
ニヨリ後ハ莫大ノ高直トナル物多キニ依テ
民間ノ支ハ変ヲ見聞セサレハ知難キ支シ當国
ハカリヲ以ヘカラス諸国ノ振子ヲ聞合セテ中道ヲ
取トキニモ治乱ノ境ヲ分別スヘキ支第一シ
表向ニハ上ノ法ヲ守ルカ如クニシテ裏ニハ其法ニ

蕘(ヨシ)ツテ悪支ヲナス支アリ一ヲ以テ万ヲ
諸物ノ價ノ高直ナルヲトキハ諸物各不切様
ニ通用セヨトアリ掟アレハ支
物ハ来ル支薄キニヨリ高シトナトテモ知ヘキニ又自国ノ産物ノ高キヲイヘハ
不作ニテ元来出来セストキハ或ハ西瓜(スイクワ)如キノ無
用ノ物ハ作ル支無用トキ渡シアルニ依テ本ヨリ多
ク不作トキヲ賞ハ多キ物ヲモ高ク賣シ又侍ノ
米ヲ拂ントイヘハ下直ニ賣ントキニヨリ諸物ノ價
高シ米ハイカヽトイヘハ津出ノ支不叶或ハ他国

リ買手不向トシテ下直ニ求メ已レカ手ニ渡リ
テ時節宜キニ至テ高利ヲ以テ他国ヘモ賣出シ
或ハ自国ニテモ賣拂フ是等ニ不限何品ニテモ
此時ニアリ皆法ニ違ルトシモノシ国風ニハヨルトイヘ共
旧主ノ親ミヲ不忘国モアリ一揆ヲ起シテ其守護
ヲ討ル国モアリ真戦国ノ余風下民ノ人情ニ今世モ
残ル者ナレハ自他国ヲ考フヘキニ天文年間ノ戦争
ノ日三刕ノ得川家若死ニシテ旧主
ヲ思ヒテ神君ノ興行ヲ開カルヽニテ知ヘシ越前ノ
朝倉家ノ一家ヨリ逆心ニテ義景一乗谷ヲ没落
シ生害ニ及フノ跡ヲ逆心人ノ取敷ニ随順シテ又其
万民等一揆ヲ起シテ其党ヲ討又其一揆ノ大将
大坊主ヲ征伐アレハ其余ノ
アリ是等ヲ以テモ推テ知ヘシ隅薩ノ如キハ又
辺国ニテ五六百年ニ及テ其主不替国ナレハ格
別ナルヘシ爰ニ權ヲ下民奪レサルノ勢ニアル
ニ已ノ身ノ及フ所ニ非ストイヘ共国風ヲ
知テ下知ヲ加フルヲ本意トスヘキ者ニ惣シテ
地方ノ侵人ハ見ヘタル所ハカリニハアラス外ノ変
モ心ヲ付ヘキニ賀府等ニテモ近年迄モ材木船

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

來レハ多ノ貫上ニ成リ囲ニ木ト成リ公儀ノ御用
木ヲ撰ミ出シ殘リハ御拂ニ材木ト成ル是ニテ
上ノ不時ノ材木御用モ手ツカヘナク御家中ノ
諸士ノ求ル材木モ直段下直ニテ用ヲ弁ズル
ニ材木船モ宮腰ヘ来レハ必ス御用木トテ召
ルニヨリ能材木ヲモ積来レリ當時ハ此御囲木
ノ沙汰ナキニヨリ材木船モ不来 偶来ルヲ宮
腰等ニ求メ置テ其價莫大ニナルニ是皆
両損メルカ 神君ノ天正十八年ニ秀吉公小田原陣
ノ節三州遠州駿州甲斐信濃ノ御領ノトキナ
レハ駿府ニ御座城ニテ三遠駿ノ海道ノ城ニ於
テ 秀吉公ノ御動座ノ饗セラルヽニ善盡シ
美盡シヲツクシ同ノ御同陣タリ然ルニ此支ナ
七年ヨリ知メルヨリ伊奈熊藏三州ニテ取所ノ
御鷹鳥ノ鶴ニ塩ヲシテ兼テ用意ニ或ハ木ヲ
自分ノ甲トシテ蓄ヘ集メタルニテ御用ニ立ツ或ハ
富士川ニ舟橋ヲ掛ヘキ旨ヲ二月十六日ニ仰渡サ
ルヽヲ九日ニ掛仕廻是等兼テ如此支有ヘキヲ知
テ内用意ヲナスニヨリ仰出サルレハ早ク支整ヒ
残シ心ニ不置支ハ急ナルトキ疑惑ヒテ分別ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ヘ不出モノ又神君或時地方ノ御役人ヘ
米ノ出来ノ様子ヲ尋玉フ委キ支ヲ
不覚然ラハ今年ノ苧ノ子ハ何トアルト
御尋アリシニ是モ不覚以ノ外御叱リニテ
不心掛ノ御答メトス傳フ是ニテ知ヌ前ニ
述ル所ノ田租ハ不及ス米ノ出来様所ニノ様
子ヲ知テ年ニ依テノ出来不出来ノ加減ヲヘ
ツ中案シ或ハ野菜ノ支度迄念ヲ入テ心付ケ
クハ皆下民ニノミ仕ハシテ下民ヲ御スル支
叶フヘカラス故ニ辨之

諸所土住の者ノ心得ヘき事

上代ハ前ニ述ル通リ国ニ国司何レノ国ノ守ト云是ナリ
ヲ置ヲ守トス仍掾目段ニアリ一郡々々ニ
郡司ヲ定ム大領小領其下段ニアリ其軍團(ダン)
ヲ置テ不時ノ変ヲ鎮ム頼朝公ノ惣追補
使タリシヨリ以来守護ヲ置テ軍團或ハ巡察
使ヲ兼メルカ如シ頭ヲ置テ郡目ノ沙汰ナシ是ヨ
リ以下ハ諸国ヲ分持テ戦国ニ及フ其様子ハ違
フトスルトモ国郡廣キトキハ其郡卿ヲ鎮スルノ役人
ハノテハ不叶ヒ當時ニ及テハ国主々々ノ領国ハ其下ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

大身共一分々々ノ領地ニ在住シテ其地ノ下知ヲ十
ス或ハサナキニハ其所ノ奉行ヲ定メテ下知ヲナサシ
ム郡主領主ハ其地狹キニ依テ其一府ニテ支ヲ
弁ス又江戸ノ御領トスル所ハ京都大坂駿府
長崎伏見堺山田下田佐渡南都ヲ初メトシテ
其外散在ノ御代官所ハ其所在住ノ御代官多
キニ在住スヘキモ不及ホトノ少キ地ニハ代官ノ手
代ニテモ在テ支配ヲナスシ如此トイヘ共上
代ノ郡司軍團等ハ皆地侍ノ勤ル所ニテ
元来士農一致ノ者ニ国司ハ京都ヨリ下ツテ

勤ルヨリ其国ノ侍ハ收ナシ、依之後トハ下ル官ヲ
厭フテ其身ハ在京シ親類或ハ普代ノ家来
ヲ以テ名代トスルヲ目代眼代トゝ然ルニ若支アルト
キハ国持ハ国民ニ親ミアルニヨリ目代眼代ノ威ナク
戦テハ員ヲ取ノ類ニ多キニ依テモ二町六段 今ノ知行六十五石ニ
ノ国司ノ職分田ハ大国ニテ
シ此外 位田等ハ有ヘキニ 郡司ノ職分田ハ大領
ハ六町 但今ノ百五十石ニ 小領ハ四町 但今ノ百石ニ 其下ノ 主政
生帳ハ各二町宛シ 然シテハ下ニ立所ノ郡
司ノ領ハ多キニ似タリ 近ノ賀府等ニヨセテ見レハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

タルヘハ地方ノ御扶持人十村或ハ平十村共ニ其地
方ニ付テノ役筋ノ取所ノ物多シトイヘ𪜈元來
ハ百姓ナレハ位ハ早キシ又諸所ノ奉行トシテ在留
ノ侍ハ位ハ高フシテモ役先ノ取物ナキカ如クナル
ヘキカ他国ニテ大庄屋或ハ庄屋或ハ名主ナトヽ云
ハ所ノ者シ其上ニ侍ノ役人有モ同シ然シ共
古ヘノ郡司ハ農家ニアルノ侍シ故ニ軍團ノ掛
テ持武威募ツテ近辺ヲ押領スル等ニテ家
ヲ興ス類ニ戦国ニ多キシ中比武門ニ名ヲ得
タル那須結城長沼等ハ郡司ノ家シ郡司ノ
様子ハ勸修寺家ノ祖高藤公ノ殿上人タリシ時鷹
野ニ出雨ニ遇宇治郡ノ大領宮道弥益カ家ニ
雨宿リシテ其娘ニ通シ定方公ヲ生ル事宇治大
納言物語ニ有トヽシ其縁賀府ニテヽ十村ノ躰
ノ如キシ如此ハ其上代ノ様子ヲヽ其地方ニ親ミ
アルハ丁知調易シ當時ヲ以テヽトキハ其預リ下知スル
所ノ郡郷丹ノ支ヲ統司ルノ支ハ前ニヽ云カ如シ
獨治世ノ用ヲイヘル田畑ノ上中下海川山林萱野
竹木草苅場船着高在所材木大豆米酒惣
而五穀産物貢出ス所
紙漆蠟油藥種白土

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

綿紬綿木綿麻布炭薪柈(カウルイ)類品〻惣而ノ
草(莫カ)子惣而ノ野菜魚鳥鮫塩乾物右ノ類其国
其所ノ産物或ハ有無ヲ考ヘ賣買有無交易ノ
様子ヲ知テ其所ノタメニ成カシ并ヘ知ヘシ扱又
其郡郷ニ於テ大工鍛冶木挽船大工塗師畳屋
春田白銀屋銅師檜物師紺屋鋳物師惣而諸職
人并諸商人諸猟師諸狩人等ノ巧拙ヲ知不自
由ナルハ招キ寄無用ヲ禁シ或ハ寺社山伏醫右外針等品〻
座及猿樂太夫神主ヲ食等ノ人類品〻ヲ知弟一ハ
浪人ノ多少他国者入込形ヲ隠シ忍ヒ居ル者カ無用ノ
徘徊非常ヲ改メ旅人ヲ早速知ノ類ニ叓多キヤリ
或ハ他領ト入交ルトキ領分違ヒ支配違ヒノ土地ニ或
ハ人民其親疎通塞ニ大キニ心得有ヘシ殊ニ他国ト
境目關所ノ奉行人ハ猶更天下ノ法モ有叓ナレハ
其改ル品ヲ糸ヘ知ヘシ或ハ關所ノ奉行ハ其関ノ
向ノ他領ノ者常ニ往来ストイヘ共関ノ此方ノ
者ト縁ヲ組入堀ヲナス叓ヲモ嫌ヒ又雙方ノ
不知ナル叓ヲモ嫌ノ此加減六カシキ叓共多シ
真實ヲ尽サハ洵ニカラス不親シテモ叓アルニ
他領ノ者モ助ケト成叓有ヘキ大方ニ心得ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

カヲス近ノ賀府等ヲ以テイヘハ寛永十五年
迄ハ賀州金澤ノ大府ノ根トシテ小松ハ則
御隠居ニ　利常公　御座城如右トキハ御城代
御城番城附ノ侍アリ町奉行アリ大聖寺城
ハ人持一二頭ニテ守ル寛永十五年ヨリ城ハ撥シテ
七万石御配分ノ別地ト成古ヘハ森下津幡モ
城アリ人持在住ス是ハトノヨリ撥城トナル松任
ハ寂前城アリ　利長公モ御居城今ハ撥セラレ
御藏屋敷トナル能登ハ所ノ口寂前　利家公
御座城今ハ撥ス寂前ハ人持タリ今ハ町奉行

ル越中ハ今石動昔ヨリ人持並鳥家代々ナリ今ハ
奉行金澤ニ在テ下役人ハカリシ城ハ廃ス高
岡ハ　利長公御取立ノ地城ハ廃ス不」廃ノ
トキハ人持在住今ハ町奉行シ森山昔ハ
利長公　御座城今ハ廃ス富山ノ城　利長公
御座城後ハ人持御城代タリ　利常公　御隠居
ノ節十万石　御配分ニ城モ・指添ラル然シ乍
富山ノ町ハ金澤ヨリ町奉行遣ハサレシカ共今ハ止シ
魚津ノ城人持御城代ナリ廃城ノ後モ人持アリ
今ハ所附ノ侍モ有テ魚津奉行在住外ニ町奉行

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

アリ此外関ニハ越中境奉行アリ賀州ノ
別宮ニ在住ノ奉行木滑尾山両所一年代リ
ノ関番ノ侍アリ大聖寺ハ所ニテ堅メル海手ハ
宮腰奉行在金沢ニテ塩裁許ノ侍宮腰在
住シ本吉ニ住ノ侍アリ能州宇出津ニ在住ノ侍
アリ越中小杉ニ郡奉行在住同新川ニ東岩
瀬ニ郡奉行在住シ新庄ニ山奉行在住セリ如此
所ニ奉行アルヲ知ヘシ如此ナラハ廣キ所ハ治メ
難シ然レ共治国久シキ時ハ奉行狂ノ成テ
国民ノ内ヨリ勤ル百姓役人其所親ニ深キヨリ
彼カ勤ル所皇ノ大方ノ所ニテ村ニテモ支調
フ様ニナル支諸国同シ
ナレハ天正十二年末森ヘ佐ヲ成政取掛ラルヽノトキ
越中氷見辺ノ百姓田畑兵衛御忠節申ニ付賀府
ヨリ永代作リ取ニ仰付ラルヽ其外荒山石動山等ノ
トキニ限ラス支アルトキ御忠節申上ル百姓ノ
子孫高ノ自作セル有ル支ニ如此支ノ下民ニ及フ
ヲモ治世久シケレハ亡失スル者多キシ其子孫等
ヲ能覚ヘテ尋ヌヘシ且一向宗門徒一揆ノ徒ト
ナル支前例多シ是等ヲ知テ不起心得在ヘシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

又慶長十九年庁桐東市正且元大坂ノ難ニ遇テ
摂及茨木ヘ入ノトキ路次ヲ討ント大坂ノ騒キヲ
聞テ丹波ノ御代官村上三右衛門馬上百騎ヲ連テ
庁桐ヲ助ケ路次ヲ警衛スルカ如キ大方ノ心懸ニ
テハ叶フヘカラス又同時泉州堺ノ政所ハ関東
ヨリ柴山ト兵衛正知ヲ指置ル十月初ノ庁桐既ニ
東方ト成テ茨木ニ色ヲ立ルニヨリ大坂ヨリ堺ノ町人今井
宗薫ヲトラヘテ大坂ヘ遣シ町ヲ随ント赤座
権蔵両人ニ人数ヲ添堺ヘ遣ス柴山無人ニテ防ク
カナク堺ヲ棄テ岸和田ノ城ニ入諸人是ヲ魂ヒ神君
ノ仰ニ柴山能時宜ヲ知是ヲシルヘカラスト宜フ
シ又兵法ハ兼畧當畧アリ或ハ人ノ頭ト成或ハ
所ヲ預ルトキハ其後変ヲ心ニ置テ早ノ取合スルノ覚悟
兼テ有ヘシ然ハ柴山カ兼畧シイハ、大坂ヨリ絶カ
三里陽タルヲ守ルニ若変アルトキハ近辺ノ者ヲモ
催シ浪人等ヲモ兼テ扶持シ村上氏カ如ク人馬ヲモ集メ
次時敵ヲ防ハ成ヘキ変ニテ其内ニ岸和田ヨリ援
兵ヲモ待ンカトスハ兼畧シ然ル微勢ニシテハ応シ
遂難カ殊ニ近キ大坂ニ秀頼公拳旗シ玉ヒ関東
ハ遠ク京都ノ板倉氏トテモ京都ハ離レ難シ

此勢ヒヲ土民迄モ知ヘクヲ又ハ堺ノ町中サヘ敵味方
ノ虚實ヲ正スヘキ間モアルニシテシハ指アゲル所ノカノ
不及ヲ知テ早ク岸和田ニ難ヲ遁ル是モ又當畧ノ一ツ
也世人ハ唯前後ノ利不利ヲ不云一旦ニ死ヲ潔ク
スルヲ以テ誉レト思フトイヘ(モ)戈ノ初メニ大坂方ヘ
柴山討レタリトアルノ敵(ツイ)ノ數誉ハ第二第三ニシテ関東ノ御爲(ヘ)ニ
其宜キヲ不知者ノ論ハ用ルニ不足呉子曰
勇ノ士於(ル)將乃數分之一再戈勇者必輕合
輕合而不知利(ヲ)未(ス)レ可(カラ)ス也(ト)云々是ニテ知ヘシ其誹リ
亦恐ルニ不足柴山一人多兵ニ向テ戰死スモ義ニモ
アラス忠ニモアラス功アラス勝アラス唯勇トスルノミ
ナラン其剛臆ヲ顯ス戈ハ後日何分ニモ可叶戈ン
柴山氏其人タルヤ十八歳ノ若カリシ日遠列時方原ノ
合戰ニ後ロ人ヲ撃而モ大小ニ三ツ巻シタルヲ添テ
來リ味方討ニテ無之證拠ヲ顯シ大キナル手柄ヲナス
是ヨリ數フルニ六十歳ノ老人ナレハ壯年ノ盛何ホトノ
武功カ多カルヘキ何ソ忽ニ迫ルノ死ヲ遁レテ節ヲ
逃ス戈ヲナサンヤ神君ノ仰ハ如此ヲノヲメニフ
ナルヘシ然シ共是ヲ見テ後昆治世ノ士等必如此

ナラント思フハ又大キナル誤ヲ生セン
ノ器量ハ到ルハ大勇ヲナス所ノ唯其時所位ニヨル
ヘノ其常ノ練ト不練トニテ批判スヘキ是等ヲ見
テヨノ弁フヘキ哉ト又寛永十四丁巳年十月肥前嶋原
ノ一揆ノ起ルノ前ハ切支丹宗門ヲ密カニ在ヽ所ヽニ
於テ小西浪人ノ大矢野松右衛門千束九衛門其外ニ
大江源右衛門森宗意軒山善右衛門等是ヲ進ム
天草甚兵衛カ男子四郎ヲ取立テ大将トナシ時ヽニ
支ヲ廣クセントス天草ニ左志木(サシキ)九衛門ト云者切支丹
信仰ナルヲ恐レテ一幅ノ天主(デイウス)ノ
繪ヲ表具シタクハ思ヘドモ云出シ雖ノ密所ニ置テ
礼拝スルヲ彼黨等是ヲ察シ密カニ取出シ一夜
ノ内ニ表具ヲシテ掛置タリ左志木翌朝是ヲ見テ
且テ不知哉ナレハ大キニ驚キ本ヨリ愚ナレハ計謀
ハ心ツク哉ナク我願ニ成就ト喜悦シテ密シニ彼
黨ヘシラスルニ右切支丹ノコロニ居タル者ヒ聞傳ヘ
今コソ再興ノ時至リ天ノナス所ト彼カ宅ヘ群
集シテ市ノ如シ所ノ代官是ヲ聞テウカト彼宅
ヘ馳行言語道断ト叱リ彼繪像ヲ引破リ
火ニ入レハ群集ノ者共腹ヲ立彼代官ヲ討殺ス

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

依之変起り爰彼口ニ群立テ党ヲ顕ス高来郡
深江村ヘ集ルト聞ヘテ嶋原高来ノ城主松倉長門
守勝家ハ在江戸ニテ留主居ノ家老共ニ取アヘス
議シテ何ノ思慮モナク侍大将十四五騎鉄砲ハ拾挺雑兵
共ニ三百人ハカリテ深江ヘ寄ルニ一揆ハ未タ千人ハカリ
ナレ共常ニ山野ニ慣タル者トゝヨリ鉄炮ハ狩場ニ
生初テ業トスルナレハ戦ノオトモナク討勝テ
城兵城ニ入是ニ一揆モ利ヲ得テ城外近押寄
タリ城兵ハ強ク防クニヨリ一揆モ引退此騒キニ
城方ノ下人ハ逃テ一揆ニ組ス此騒キヲ隣国ノ城主
ヘモ知テ国境ヘ近ハ人数ヲ出ストイヘ共江戸ヨリ
下知ナキニ他領ヘ人数ヲ入ル事不叶ニヨリ
注進往来ノ間ヲ待ノ内ニコソ一揆ノ党ハ与力
スル者多ク成テ粮米等迄一揆ノ有トナン鏑嶋
細川ノ家臣等両氏在江戸ノ留守タリ高来ヨリ
加勢ヲ乞ニ依テ鏑嶋人数ハ川田庄ヘ押出シテ
備細川人数ト川尻迄押出シ置ヲ豊後府内
ニ西国御目付ノ牧野傳蔵林丹波守居ラレニ
依テ相談ストイヘ共関東ノ上意ヲ守ルヘシト
ノ返答ユヘ早速モ隣国ノ人数出ハ踏鎮ル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

妥モアルヘキニ残念ナル妥ニ及フ元来ハ肥後天草ノ領主寺澤兵庫及忠高ノ領分天草大矢野ノ大庄屋渡辺小左衛門ト云者ハ四郎カ父甚兵衛カ兄ニテ此宗ニ志厚ク我支配所ヲ進メ妥ヲ起サントセシ折カラ右ノ騒動アルニヨリ細川氏ノ領宇土郡ニ四郎カ老母兄弟ヲモ置メルヲモ同道シ或ハ宇土郡ヲモ様子ニ依テ進メ入ント密ニ上下四五人ニテ宇土ノ郡ノ甲ノ浦ヘ舩ノ寄テ上ルヲ細川氏ノ役人改メテ小左衛門ハ不及云四郎カ母兄弟悉ク召捕ル如此

レテ裡経ル内ニ十月モ尽メリ江戸ヨリ板倉内膳石谷十蔵ヲ下シ給フノ妥ヲ聞テ十二月朔日ヨリ十日迄ノ内諸分ノ一揆等一ツニ成テ高来郡ノ有馬浦ニアル原ノ古城ヲ取立此城ヘ籠ル粮米已カ業ナレハ澤山ニ取入一揆二万余人妻子足弱一万六千余人合テ三万七千ハカリ天草四郎太夫時貞ヲ大将ニテ籠ル心易ク業取ントナレ共、攻衆ヲ増テ松平伊豆守信綱戸田左門氏次ヲ下サルヽト聞テ板倉内膳ハ翌寛永十五戊寅年正月九日無理ニ一番攻ヲナシ城不落シテ討死ヲ遂ケ漸ク

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

肯ず七日ニ落城シテ、城内一人不残切殺サレ寺沢氏ハ
天草領上リ松倉氏ハ島原ノ内ニ身代景ル普ク人ノ知ル処
ナリ弁スルハ別ニ支ニ述ル諸所ノ預ル役人ハ如此支ノ
支ノ長ク弁スルハ別支ニ述ル諸所ノ預ル役人ハ如此支ノ
不レ起ラ以前ノ鎮ムルヲ専トスヘシ若他領ニ支アラハ
隣境ノ心得等ニ其宜キヲナサン為ニ書之百姓ハ田
地ニ付ク者ナレハ黨ヲ組テ起ルトキハ支ノ調ヘ
様捨別早キヿ又中花明朝ノ未崇禎帝ノ
トキ天下乱レ諸所ノ防キニ隙ナキ比河南ノ
開封ニ李岩トヽ文才有テ慈悲ヲ好ミ貧民ヲ
恤ム者アリ歩續キ不作ナルニ近郷ノ民ヘ未銭ヲ貸支ニ
三年ニ又不作ノ年其所ノ奉行李岩ヲ呼テ又
近郷ノ貧民ヘ米銭ヲ貸渡セトヽ李岩モ
數年ハ自分ニ貸渡ス今ハナシトヽヲ疑ニテ
獄ニ入ルヲ日比恩ヲ得ル土民等集テ獄ヲ
破テ李岩ヲ出シ其比ノ一揆大将李自成カ徒
従テ李岩ヲ李公子ト称ス自成カ黨ハ猛
威ヲ奮フトイヘ𪜈賊兵ニシテ人道ニ乖タリ
ニ李公子文ヲ作テ崇禎帝ノ罪ヲ討ス上已ニカ
闖王李自成ト組スル上ハ仁義以テ本トス乱行
狼籍有ヘカラストテ方〻へ云送リケレハ真徒弥多

成テ終ニ北京ヲ破リ崇禎帝梅仙ト云所ニテ
自カラ縊死シ玉ヒ明系絶ス國王天子ト自称スイヘ
遠東鎮吳三桂カ韃靼ヲ導キ加勢ヲシテ山海関ヲ破リ
入ルニ依テ北京ヲ落テ陝西ヘ逃李公子ヲ疑テ殺シ
終ニ吳三桂カタメニ國王ハ死ス其間ニ東韃靼ヨリ北京
ヘ押入テ中国ノ王ト成大清ト改メ煩治ト改元シテ終
ニ韃ニ奪ヒ取ル如此次シノ支大キニ成ヲ知テ時節
トハ云ナカラ其所ノ奉行人等ハ責テハ其志及
ノホトノ了簡ハ有ヘキ支シ支ニ先立テ不示シテ
ハ叶フヘカラス又　神君ノ板倉四郎九衛門ヲ　初メ

駿府ノ町奉行タラシメ中比江戸ノ町奉行トナル
其仕置ノ宜キヲ以テ後ハ板倉伊賀守勝重ト
号シテ京都ノ所司代ニ仰付ラル　所司代ノ支ハ
上代ハ無之支シ頼朝公鎌倉ニ在テ其代官ト
シテ木曽義仲或ハ源義経公等ノ登リテ
内裏ノ守護スルハ丈ケ其法不調其以後ハ
両六波羅ニ奉行ヲ置テ支ヲ取行フ京都
将軍家ノ中比ニ至テ三管領四職ヲ定メ職家
ヨリ一人宛在京シテ支ヲ行フトイヘ尼後其前司
人自身ハ不登仕シ木家ヨリ名代トメ村井長門ノ

在京サセラルル如キヲ所司代トイヒ依之其名目ニ依テ所司代トハ西国中国ヲ以テ総テ下知スル心持ニテ第一ハ天子ノ守護シ奉ル心ノ職ニ所ヲ預ルトイヘドモ内ニ於テハ是ホト重キ役ハナシ昔ハ江戸ノ老中ヨリ所司代ヘ移リ今ハ所司代ヨリ老中ニナルハ是ヲ次シ其職掌ノナルニ似タリ所司代若江戸ヘ下ルノ間ニ大坂御城代ニ西国方ヲ統ル心持アリ元禄年間ヨリ取司代ノ号ヲ止テ所司ト称ストイヘドモ甚重キ号ト成テ職威ハ次男薄ノ感ハ是ハ大キナル変ヲ示シ唯其主ト指離レタル所ヲ預ルノ奉行役人ハ大トナリ小トナリ

定法ハ其通リナレドモ君命ヲ不待シテ施シ行フ変変ニ到テハ多カルヘシ故ニ油断ナリ心掛ナクハ変ノ到ルトキノ首尾ヨカルヘシ依之其一二ヲ挙猶変跡ノ善悪例シテ何ホトモ可有之牧挙ニ遑アラス然ルニ半銅ノ姦トテ財ヲ受ルヲ要トスルノ役人等ハ必ス実用ヲ取失フヘキシ前漢書刑法志曰姦吏因縁為市ヲ云ヽ其註ニ師古曰弄法而受財若市買之交易云々爰ヲ以テ半市之姦トス其実役勤ヲ守ル者ノ志シ大キナラン、ソ第一トスヘシ

地方より道場船、駄等必有へき事

人ノ往来スル所ノ道日本上代ハ道橋ヲ以スル
ノ掟シ既ニ令義解曰凡澤曰皆隨近給大
路ニ四町中路三町小ノ路ニ二町（但四町ハ高
三町ハ七十五石ニ百石ナリ）然シハ其ノ
二町ハ三十石ニ
コトク渡スシ又曰凡要路津渡（ワタリ）謂不必大
来有要使 路當人住
者皆是シ不レ堪渡（ワタルニ）之處皆置レ船運渡依
至レ津先（ニ）後爲（ナセ）レ以（ワイテ）国郡官司検校及差人夫
充其度（ワタリ）子（モ）謂以雑徭差配 二人以上十人以下每二人
船各ト一艘云云是當時モアル川ノ渡シ
橋ノ支モ東海道三列岡崎ノ矢作川ノ矢作橋
ハ百五十間余ニテ一万石橋領アリ三列吉田ノ
吉日ノ橋モ六十間余ニテ五千石ノ橋領アリ如
其入用トシテ每年地ヲ除置ハ古法驛田ニ近キ
カ岐岨ノ桟路モ每年ノ修理アル支シ諸国
ニモ皆如此越中ノ愛本ノ橋等ハ每隻ノ大作支
ナリ又遠方海上ハ船ノ大小ヲ以テ通ス然ルニ上代ヨリ
其要トシ関ヲ居ル支ハ地形要塞ノ所ヲ以テスル
支シ非常ヲ改ルノ関シ大船ノ出入ハ津シ故
ニ津入津出ヲ改ルシ如此ニテ支整フ所山路

海辺ニ不限所々ニ難所ヲ残シテ要塞ト思フ者
アリ大キナル誤リナリ東海道ニテノ箱根山ノ如シ
下通リニテハ碓氷峠ノ磐根石ノ如シ天下ノ防キ
ニ一箇ノ難所ヲ道ヲアシクシテ防クト云ヲ不
ス橋不掛ホトノ大河ハ舟渡ヲ用ユ舟モ不
通ホトノ早キ流ノ川ハ其上カ下ノ瀬ヲ見テ
歩ワタリニ或ハ淀ミヲ舟渡ニス陸路絶タルヲハ
舟ニテ通ス山路ノ絶タルニハ桟ヲ用テ通ス山路ノ
高キモ道ヲ開キ坂ヲ付テ往来ヲ易クストイヘ
ドモ山ハ其形チアルモトナレハ心ニ不任故ニ中仙道木曽
路ヲ経ルトキハ山ノ上下多シ碓氷ノ磐根石ノ如キハ
イカヽシ峠ヨリ南ニ當テ入山越ト云アリ此道ニハ
山坂次クシテ次シ道ヲ廣ムレハ往還上ノ道トナ
木曽路ノ如キハ外ニ道ナシ碓氷ノ如ク易キ道ナラ
不通シテ山坂ヲ通スハ實理ニアラス若軍旅ノ難ヲ
防ントモ兵ハ人ナキノ地ヲ行ノ習ヒ孫子
ニサエ論ヲ古キ支シ尤アラハ平生旅人ノ煩ヒノ
ナキヲ要トスヘシ越後ノ市振ヨリ居田迄ノ海辺ノ
道ノ下ハ難所シ其難所ナラスシテ道ヲ作シハ能道

何様ニモ出来スル哉シ旅人ノ往来ヲ止メ或ハアヤヲ
ヲナシ死亡シ或ハ荷物ヲ浪ニトラルヽ者幾ソヤ
是等ヲ不忍シテ道ヲ不作トキハ天下ノ法ニテハ
ナシ皆其所ノ私欲ヨリ起ル哉シ此理ヲ計ツテ
通レハ滞留多フシテ所ノ者共出テ馳走タテ
銭ヲ多ク取ニ弱リテ山路トイヘ(ヒ)川ナキヨリ近年
岐岨路ヲ往来スル旅人大名衆ヲ初メ多クナシ

岐岨路ハ此理ヲ弁ルカ筋ナキ銭ヲ不取トナリ
是等ハ往還ノ大道ヲ云ヒ又脇道トモ云ヒ小路トモ云ヒ
道ノ大小ニハヨラス人ノ往来繁キ所ハ必ス土面
ヨクスヘキシ馬蹄ヲ不拘損人ノ足ノ不痛ヲ要
トスヘキ哉シ国ヽ道橋奉行モ有モノナレトモ
是ヲ改ムル者少ナシ毎度々々直ストキハ一度ニノ
物入モナシ久敷不擁シテ俄ニ作レハ物入多ク
却テ大雨ニテモアルトキ土落付ズシテ早ク損
スルモノシ不絶ス破ヲ補フヘシ中花ハ道ヲヨク作ルト
云ヽ路松モ明朝ナトハ盛シ且又船着ノ津入津出ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

改ル其筋ノ奉行ノナス所ニテ畢竟国中ノ米或産物ヲ他国ヘ無法ニ出ストキハ自国ノ諸物差ツカユルニヨリ其理ヲ計テ免シ出サシムルナルヘシ　其積等ノ支ハ前ニ述ヘタル或ハ陸ノ関ヲ行シトスルナリトイヘ(モ)舩ノ着地ト不着地アルニヨリ畢竟尤様ノ支ナラサル様ニ天下ノ掟モアルヘキナレハ知ヘシ　油断

支シ只国家ノ作法モアルヘキ所ハ常支ノ大支等有ヘカラス當時道アシキ(ノ)節サヘ馬蹄ヲ損シ或ハ溝堀ナトノ橋杭ヲ踏落スカ如キハ實用ヲ失フ支甚キ者ニシテ如此ノ雑支迄モ地ニ付ル

第九

一　急所方役人ノ事　并ニ兵粮ヲ運タル先ノ掟ヲ或ハ武家ニヨル(ノ)事

軍用ノ支ハ悉ク論ヘ者シ

上代ノ様子ハ久シキ支トイヘ(モ)宮内省ニ諸国ノ調雑物(ミツキノモノ)　但此内様々ノ国ノ産物食物モ多キヘシ　蓊米(ウス、キコメ)　官田ノ稲田ハ幾内(ミアルヲ云ナリ)　其外御畑物又ハ諸国ヨリ獻ス(タテマツル)ル食物等ノ支ヲ司ル其下ニ大膳職アリ大膳ノナス所ハ右食物ノ支并ニ諸ノ具食熟食又ハ肉醤醋菜醤(ヒシホ)、酢ニ米醤有菜(クタモノ)雑餅(モチヒ)食料ノ

支ヲ掌ル其下ニ又一品々々ノ諸取ノ役人ヲ定ムルヿ
膳部ト云者今云料理人ノ如キ者ニ其下ニアリ
鵜飼(ウカヒ)江人(エヒト)網引(アヒキ)等モアル支ニ
宮内ノ下ニアリ内膳司モ宮内ノ下ニアリ内膳ハ今
膳奉行ト云カ如ヿ大膳職モ必ス内膳ノナス支
ニモ加リ勤ル支ニ凡ソ民部省ニハ稗調ノ支ヲ
統掌ル宮内省ニハ其内官田ト調物ノ内ノ支
ヲ司リ食物ノ調物ハ大膳職ニ知所メルカ是
ヲ以テ見レハ當時ノ武家ニテハ収納方ノ支ヲ統
領スルハ江戸ニテハ御勘定頭賀府ニテ御菜
用場奉行ヿ大膳職ノ如キハ御臺所方ト号スル
支諸国同ヿ宮内省ヘ隨フ如キノ様子モナク
御臺所方ノ役ノ収納方ノ役ノ下付ノ様子モ
ナシトイヘモ所ヿノ産物或ハ食物ヲ調ルニハ相
通シテナス所アリ内膳ノ如キハ當時ノ膳奉行
メルニ依テ臺所方トハ必ス通スルヿ造酒司ノ如キハ
當時ハナク収納方ノ役人ト町奉行ト臺所方膳
奉行皆通スルヿ是等ノ差別ナヿ難キニ依テ此
兵粮方ノ支ヲ論スル所ニ臺所方膳奉行等
ノ支ヲ論ス依之兵粮ヿメノ様子悉ク出之ナリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

又古工ノ大炊寮ハ春米雑穀ノ支ヲ司リ諸司
食料ノ支ヲ司ル〻武家於テ常支ハ不及云陣中
ニテモ急ニ食ヲ調ヘ或ハ大饗應等アルニ様子ニヨリ
手遣ヒ早クスルハ其奉行ノ働キシ物ヲ軍鑑ニ云
侍ノ役ノ外賄賂役ト云此類ヒヲ統ル支ナリ
其主ノ身代依テ其役柄ニ高下品〻兼役當
役ノ差別ハ有ヘキ〻

附リ

意所頸意而意ヲ司ル支ヲ役人も多
ケレ〻旦又戦場ニの於ても役ニ立ヘキ事

甲陽軍鑑備定之巻ニ御臺所頭兩人前嶋加賀守
大嶋惣兵衛此外十人アリ云〻考ル所十人ト云ハ右
兩人カ下役ノ侍ナル〻此外料理人等以下モ
ナクテ不叶支シ委キ支ハナシトイヘ尼未書下巻下
手魚鱗ノ陣取之圖断ニ陣屋ノ掛所本陣ノ
近クニアリ又未書下巻下五備之圖断ニ前備
左ノ跡武田甲斐守ノ手ニ惣而旗本ニテ如此
ノ衆猿樂迄ヲ書タリ爰ヲ以テ云傳ル所ハ當
番ハ其役ノ勤メ非番ハ圖ノ所ニ備テ働ラスト是
武家ニヨル所ノ者ハ云ナル仕様トシ行列ノ支ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

与之ト雖モ當番ハ必ス御旗本ノ指次ニモ押ル
非番ハ備ノ通リ前備ノ跡ニ隨ヒ行テハ有カラス前備ハ時ヨリ一日半日先ヘ押支モ有支然シハ臺所方非番ハ結句跡ヨリ押テ備ノ場ニ列テハ定規ノ所偖心カシ畢竟是等ノ黨ニモ手ヲ塞カスヘキト支シ又江戸ノ御臺所頭ハ如此ノ樣子心得知ヘキ支ト御料理人モ頭等分リテ有之躰ヲ見立近ノ賀府等ニ於テ元禄年間ヨリ改メテ仰付ラレ役柄御使番ノ下ニ有テ兩人今ハアリ

其下ニ与カ十人同心モ多ク小者モ多キシ御料理人ニ示頭兩人アリ畢竟二組ト見ヘテ當番ハ當役ノ勤メ非番ハ戰場ノ働キヲ勤ルト云甲列流ノ格ニ見テモ支叶フ所ハ同心ニ弓鉄炮ノ業ヲナサスシハ則足輕働シ支實ニ至テハ前云所ノ青沼助兵衛カ如ク又ハ足輕働ハ足輕之巻ニ云カ如キ品何分モ有ヘキ支ハ次ニ述之又當役ノ軍食ヲ調ル支ハ兼テ常奉行ニモ軍食ハ其ノ先ノ奉行ニモ用ニヨラス奉行

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

兵粮三人前ノ支度ト云ハ朝昼夕ノ食并ニ夜
中不時ノ食迄ヲ調ヘハ一人前米一舛ヲ朝一
度ニ焼テ腰ニ付ル城攻合戦又ハ行列ノトキ
晝間シカランニハ如此スルモ常法ニ謙信公
流ノ作法ハ毎霄ノ明朝ヨリ一日ノ食ヲ焼
ヲ陣中ノ常法トストゝ云 依之河中嶋合戦
ノ前夜ヨリ暁ニ到テ武田方 俄ニ食支度スル
ノ火光ヲ 謙信公見玉ヒテ明十日 信玄ハ有無
ノ一戦ヲ期セラルヽト察シ玉フ 謙信公ハ前ニ云
ノ作法ナレハ九月十日ノ 拂暁(フツキヤウ)ニ 陣ヲ瀬ヲ越テ
河中嶋ヘ出ラルヽモ 武田方ニ不知 或ハ又必ズ
腰ニハカリモ不付跡ヨリ軍食ヲ持参スル
ヌモアリト見ヘテ結要本ニ手カヘノナイ人足
勝負ノ根本トアリ手カヘハ手拭ニ包カ又ハ
腰ツトヲ以テスヘキ又急ナルトキ 當時火支
場等ヘノ食物ヲ遣スニハ菜ニテ包メルツトヲ
用ニ喰済テハ捨テモ手間不取 塩ヲ吹入
クルハヨシトゝ又急ニ食物ヲ調ヘ未ダアメカヽ
ヲ急キツクリ子飯ニハ成兼ルヽ分量ヲ極メテ
盛リ立戸板ナトニナラヘテ置ヽ手間不取シテ宜

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

キ込軍中ニテモ跡ヨリ食持参ノシテ諸勢ヘ配ル事
アリト見ヘテ三品虎畧品頭書元亀三年遠及
味方ヶ原合戦ノ時徳川家康居城隆ル卯ノ刻
前ヨリ旗ヲ被」出ニ付行器ヲ備場ヘ持来ル
徳川方後ル故膳奉行ノ鳥井主膳或ハ花藻(ハナモ)(ニホヒ)匂両人
ノ女武田方ヘ捕ヘ候主膳ヲ況ヤ両人ノ女ノ衣装ヲモ
男道不覚ニ不成様ニ勝テ水二日ノ朝酋實
無相違ル二日ニ合戦ニ勝テ水二日ノ朝酋實
検ノ後當座ノ無事カ作リ膳奉行ノ侍中
居ノ両女徳川方ヘ被渡ト云々居城近ケバ如此

ノ事モアリト知ヘキシ又一筒ノ武功ニ云所ハ鍋ヲ
トキハ地ニ穴ヲ穿テ火ヲ焼テ古莚ニ米ヲ濡
シテ包ニ入テ上ニ土ヲ吹シアケテ其上ニテ火
ヲ焼服ヨリ水ヲ吹死サセハ酒食ホト出来
ル也ト云々ハ吹サキ武功ニテ多クノ食ヲ認ルニハ
用ヒ難シ陣中ヘ鍋釜多ク持参ハ咸事ニ
ヨリ吹ニノ鍋ハ持行テ其行先ニテ鍋釜ノ借
或ハ乱放取ニシテ急ニ食ヲシタヽムル事陣中ノ
通例ニ真食ヲ持心ニ手廻シテ早クスル要トス
ヘキニ陣中ニ不限常ノ旅行ニモ大勢ノ食ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

調心得アル事ニ候　秀吉公ノ天正十一年ノ春
柳ケ瀬合戦ノ前夜美濃路ヨリ早行シヨウノ時
ハ先ヘ早道ノ者ヲ以テ村里ヨリ食物湯水
馬ノ喰物ヲ以テ道筋ニ火ヲ立出ル者ニハ
後日ニ急度褒美ヲ給ハラント觸テ通ルニ
ヨリ在ル所ニヨリ食ヲ以テ寄惣軍是ヲ食
シテ滞リナカリシ如此ノ用ヲ不知シテハ
軍食ノ急ニ調フヘキ様ナキ
無用ノ軍食扶助ノ同度量ニ事
陣中ニ食ヲ満ントセハ限リ有ヘカラス然ニ
陣場ヘハ食物持寄モノトモイヘリ又難儀ノ時
ハ食尽ル常ノ旅行ニモ有ル依之陣中
人馬ノ不時ノ兵粮三日分ハ必ス用意ノ特ニ
其積リ前ニ述ル通リニシ惣シテ食ハ常トテモ
心得有ヘキ無用ノ費ナキヲ要トスヘキ事ニ
扱又軍食ヲ調ニ役人ノ心得ハ戦場ヲ町ヘ町ノ
内ナラハ陣屋ニ残シテ食ヲ調ヘ遣スヘシ一里トモ
出ントキハ必ス食ノ役人先ヘ随ヒ行ヘキ
三四里モ働クトキハ陣屋ニ不残シテ戦場ヘ行
其先ニ野陣ヲ張テ食ヲ拵ル事味方ケ原合戦

勝利ノ時武田勢小刑部ニテ退ク軍食ヲ
調ル如ク又今川義元公ノ尾列ヘ乱入取出四ツヲ
隨ヘテ合戦ナキニ競ニ桶挟間ニ緩ト兵粮ヲ
ツカイ酒宴ヲ設ケラルヽヲ信長公山陰ヲ潜
行有テ急ニ戦テ御勝利義元公討死有ル
ハ軍食ノ手廻シ不宜故ナリ
支度早速ニナクハ不時ノ変ニ取合セ難キ
此境ヲ了簡スヘキ
陣中ヤスクモ大振舞モ
常トモ遠ヨヘキヲ事ヲ
支陣中ニ居ヽアリ小身ノ郡主国主ノ地ヘ大国
ノ主ノ働入ヲ防クハ主戦トモ働入ノ方ハ容
戦トスル其主戦ノ同シキ
ナシ容戦トテモ敵国ヲ
シ或ハ敵国ニ入テ在陣久シノ或ハ境目ヲ守テ
久キトキハ支ニヨリ有支シ惣テ陣中ニテハ万ツ
ヲ略シテ出合ヲ禁スト云ヘ尼武田家ニテサ
ヘモ後ハツキ合ヲナシ況カ軍鑑法度書ノ内ニ
向後陣中ヘ無用ノ椀折敷持参スヘカラストノ定
メアルニテモ知ヘシ一方辺ナトニテハ猶更有ヘシ

云傳ヲ上代義家公ノ與列征伐ノ陣中ニ於テ
諸士ノ働キ甲乙ノ座ヲ立テ毎日饗セラル、
ニ依テ何モ甲ノ座ニ着シトカ励ミシトカ軍鑑ニ
モ天文十五丙午年十月六日雄氷峠合戦服刺
有テ狂井沢ニ三日野陣ノ張リ十日ニ晴信公甲府ヘ
御馬納レ其跡上州ノ敵ノ厭トシテ猶板垣駿河守
信形ヲ残サレ狂井澤ニ在テ毎度敵ト火ト働アリ
此トキ信形隨ヲ所ノ諸侍ヲ励シタメ毎日是
ヲ饗食スルニ其當日手柄アルノ侍ヘハ朱椀ヲ以テ
無塩ノ料理調菜ノ數ヲ増シ手柄ナキ者ヘハ
黒椀ニテ一汁一菜ノ精進物ヲ以テスルト委ク
アリ如此ナレモノト可知シ又天正七年武田家
滅亡ノ以後ニ信長公ノ家康公ヲ饗セラレシ時ハ
明智光秀其支ヲ仰付ラレ其木具等迄出来
セシニ信長公ノ御意ニ不應江州ノ湖水ヘ打入サセ
ラル、是等ノ憤リモ光秀ノ迷心ノ一支メリトゝ
又明智カ信長公ヲ討奉リテ祝ヒトシテ急ニ
振舞ヲナスノトキ古實ノ盛物饗ノ膳ヲ拵ヘ
トノ支ナレ料理人心得ヲ折節六月ノ支ナレ
ハ急ニナリカヲ精進物ヲ以テ早ク仕立ルトゝリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

光秀其罪キヲ悦テ料理人ト近間ヲ天下一ト称セシトゝ然レ共精進物ニテ仕立シハ後ニ不吉ノ端ナリシトゝ傳フ又天正十八年小田原陣中ニテハ大軍永陣ニ気ヲ屈スヘキヲ秀吉公ノ寨シモニ出合テ吐ヲナシ或ハ能ヲ奥行哥ノ會茶ノ湯ノ會等タリシし又朝鮮陣ノ節彼地ニテ渡海無之面〻も肥前名古屋ノ數ケ年ノ在陣ニテ後ニハ秀吉公諸大名ノ陣屋ヘ御成ナリ利家公ノ御陣屋ヘも御成ニテ急度ニ〆御饗應ニテ木具仕立ハ不及云給仕人惣様(ヤウ)

長上下ヲ着スルホトノ事ニト云〻然レ共考ル所當時江戸等ニテノ大名ヘ御成ハ不及云將軍宣下等ヲ初メ急度ニ〆御饗應ニテハ似ルヘカラス陣中ニテハ事疎ナル所有ヘキし陣中ニテも上使ノ饗應等アル事ニし然レ共京都將軍ノ亦ニ到テハ饗應ノ事至極叮嚀ニ成テ陣中ニテも大キニ事ヲ貴スト見ヘタリ信長公ハ其事粗ノナルし秀吉公ハ其六儀キヲ察シモフカ茶之湯トシテ事ヲ粧ヒ交易ニ唯親ミヲ結フ如ノナレモフし神君且秀忠公家光公モ其餘風ニテノ

茶吃湯トシテ御成アルトイヘ𠮟次第ニ治世ナリテ
支度ナルヲ見ルニハ秀吉公ノ茶之湯ヲ用申支ヲ
旺ノ陣中ニテモ交會アルニ其用大名ノ出合ナ
カラ旺ノテ支調フノ本意ハ又勝レタル味ニアル所カ
又大勢饗應ト云トキノ本意ハ汁ト菜トノ
數或ハ其座席給仕人ノ高作法等ヲ以テノ
馳走ナレハ支ノ調フヲ以テスルナレヘシ又陣中
トテモ不時ニ出来合ノ料理ヲナス支心得アルヘキ
心寛永十四年冬天草一揆大キナルニヨリ在江戸ノ
細川氏鍋嶋氏ヲ指遣ハサル東海道ヲ五ニ急キ

テ行心ノ内細川氏ノ旅宿ヘ鍋嶋氏見廻シニ出来
合ノ料理ヲ出ス又鍋嶋氏ノ旅宿ヘ細川氏見廻シ
ニ出来合ヲ出シ茶迄出シテ鍋嶋儀ハ疾旅宿ヲ立申
ト有ニ依テ細川氏セカレタリ氏云傳フ又大坂陣中ニ
饗應モナカリシカ氏冬陣遠ク正二月迄ノ間京都
辺ニ在留ノ諸大名互ニ出合アリトシ同ク菱陣ハ
次ノ日數ニテ城落去シ其後惣軍ハ諸国ヘ皈
テ諸大名余ノ京都辺ニハ八月比ニテ在留ノ衆中
アリ出合振舞モ多ク賀府等ヨリハ其御給仕ノタメ
前髪アリテ幼次ナリシ者御留守タリシヲ召寄ラレ或ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

家前一統ニ皈リ然ル後ヨリ又上京シテ御無人
交代ニ及ルトキハ或ハ陣中ニテアラサレ共寛永迄ハ
有之御上洛ノトキナトハ御旅宿ニテ出合アリトゾ
或ハ慶長ノ中比尾州名護屋ノ城普請アリシ
諸大名御手傳トシテ四人カ御越ノトキモ御出
合毎度アリシトゾ利常公御若キ時ヨリ被爲
入テ老人ノ加藤清正ト御出合ナサレ利家公ノ
御咄ナトヲ清正物語仕ラレシトゾ傳フ畢竟
如此ハ皆陣中同室ニテ其意怪キ善シ扱又陣中
ニハ定法アリ出陣陣中歸陣等ノ時ノ作法アル意ハ
料理方ニモ習アリ古實者ニモ習アリトイヘ共畢竟
ハ其家風ノ流例嘉例アルモノナレハ是ニ隨フヘキ
シタトヘハ武家ノ通例ノ如クナル春ノ鎧ノ鏡餅
ノカサリ同ク是ヲ直シテノ祝ヒ等モ家格品ヨリ
是ニハ限ラス其嘉例ハ云尽シ難キ意シ其節
依ヲ違フトイヘ共軍ニ勝テハ軍神ニ御酒ヲ備ヘ
南天ノ御手水太布ノ御手拭ノ作法有テ勝閧
ヲ具戦場ノ芝居ヲ踏ミテ取行フカ如キハ必ス其
様子違フ事ナクテ不叶意ナレハ兵家近拠ノ例ト
スル処ノ打勝悦トノ祝ヒヲナス歟斗勝栗昆布等

如キ物ハ不絶ノ心得其役人ハ有ヘキ哉ヵ衆人ノ知所ニ任セテ慥ニ勝関ヲ取行フトモ所ヲスレテノ證拠トスルナレハ其衆人ノ知所ノ祝ヒ物アルモ則ヨラシムルノ一ツヽ大小急緩ニ付テ其役タラン人油断有ヘカラス故ニ其一二ヲ挙テ諸妻ヲ諫サトスヘキノ謀トスルヽ

料理人ヲ分ケ役人ヲ定ル事

料理人ハ其職タル者ノナス取ヽ料理方ノ習古質等ハ猶前章ニモ云趣ヲ知テ軍用ヲ弁スルニ又料理頭ナル人ハ必ス食物ノ出所善悪ヲモ知且喰合セノ善悪ヲモ知ヘキ哉ヵ當時ノ模様唯景気ハカリヲ專トスレハ多年毎ヲスルハ九年毎ハ臭毒ヲ消ス物ヽトイヘリ依之置ノナリ此説若實ナラハ尤ヽ細ト云ヘキカ是ニ依テ諸物ノ様子實用ヲ失フヘカラス軍鑑ニ云如ク鯉ヲ焼物ニシ鴨ヲ鱠ニスルトヽカ如キ哉ハサンアメリニテ人ニセサル哉ナレハ不及ヽシ公家一統并ハ内膳正ハ志ヲ守ヲ第ヽト志列ハ京ヘ近ノ魚ノ宜キ国ヽユヘトヽシ此通リ物ノ手遣ニ宜シケレハ食物ノ禽入ルト知ヽ能感通セル人ニ三人モアレハ

外ノ下知シテ支調フヘキ料理ノ塩梅ヲ吟味スル
ハ茶ヲ湯料理ノ如ク人數少ナキ時ノ支ニ客
數多シテハ唯支兼帯ナラス早ク調フ第一ナル
ヘシ扨料理人ノ働ハ不時ノ客ニ支ヲ弁シ大勢ノ
客ニ甲乙ナキノ要トスヘシ戦国等ニテハ別シ
テ人ノ気遣ヌルハ食餌ナレハニ伏見ニテ利長公ノ許ヘ
不時ニ御客来ニテ御茶ヲ御出シ有ヘキト支ナリシニ御
料理物急ニナク イカヽト思フトキ趨ヲ煮テ鯉蒲
ヲ削リテ置出スヘシト 利長公急ニ思召出サレ御
好ノトキ御料理方ノ長谷川某是ヲ酒ニテ煮テ出
今傳ヘテ酒趨トハ是ニ右長谷川カ工夫ノ塩梅ト
云傳フ如此ノ気轉アルハ又稀ナル感能ナル
ヘキカ美物ヲ以テ美味ヲ調ルハ成支シ陣中等ニ
テハ弥兼帯ナルヘシハ此間ヲ工夫スヘキ者ニ猶其
一道ノ習多カルヘキニ又其外ニモ臺所方ノ下小役人
多クアルヘキ支ニ前ニモ云通リ殺生人或ハ小細工アル
者モ重ニ入ヘキ支ニ他ノ役所ノ不頼シテモ急ニ
吹ニノ支ハ出来セスハ支調ニ兼ルニ其器物ニ
ツキ品リ役人多ク有ヘキニ下役人ノ私曲ナキ様ニスル
支等ハ不及云ニメトヘハ物ヲ求ルノ積リニモ六尺縄

一シメク何程ノ價ト定ムルヲ帳ニハ其通リニ付テ
實ハ三尺縄ニ一シメヲ取カ如キハ其積ヲ不知者ノ
聞テハ怪ノ其分ト思フトイヘ共六尺縄一シメノ物ヲ
三尺縄ニシテ結トキハ四シメトナルヘシ是ニ例シテ余支
ヲモ知ヘキシ又勘弁ノ第一ニスルトテ余リニ物ヲ下直ニ
メ求ントスレハ却テ麁抹ナル支有モノニ大名ノ下ヲ
調ル食物ノ麁抹ニテハ如何ニト遠慮アルヘキ支
念ナキ事
晴ノ事ニ附リ御大将ノ食儀常ニ変ル

令義解曰趣キ内膳司是ニ奉膳ノ掌ル所
ハ御膳ノ支ヲ惣知進食ヲ先掌ルシ御食ヲ
調ヲ上ルトキ隨テ出御目通ニテ先味ニヲ試テ
上ルシ當時御膳番トヽ云カ如シ典膳ノ掌ル所
ハ御膳ヲ調ル支ヲナスシ吟味ヲシテ仕立ルシ
此等ノ品ハ大膳モ交リ掌ルトシ當時ニ見ルト
キハ奉膳トヽハ鬼ヲナスノ役人シ典膳トヽハ御
膳ヲシメヽサスルノ役人シ焚ハ御膳奉行トヽ云
者ハ此内様ヲ兼ル者シ獨鬼ヲナス支ハ大将ノ
近辺ノ頭立ル人モ立合ヲスル支アリ或ハ御膳ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

調ル支ハ臺所奉行ノ立合テ調ル物モアル支古来ノ
格ノ如ク　外其御膳ヲ調ル料理人ト譜代ノ疑
ナキ者ヲ撰テナスヘキ支シ御大将ノ食餌メシハ
戦国ハ不及ス平生大支メル支ハ知メル支シ或ハ鬼
番ヲ仰付ラレシニ其者常ニ食アメリシメル支ヲ
不覚ヨリ其支ヲ申立　御請ノ日ヲ延テ氷霜
石ヲ一日ニ何ホト、分量ヲ定メ日々ニ増テ奨シテ
呑シカモアメラヌニヨリ此ニ走ル申上テノ其侭儀ノ
御請ヲナサス真實ヲ感セラルヽト云出モアリ
又利常公ノ御近習ノ侍ニ武蔵權平ハ御食ノ
塩梅ヲ先立テ試ミ仰付ラルヽニ其好ム所皆
利常公ノ御心ニ叶フメトヽハ今日ハ此塩梅ヲヨシト
アルヲ料理衆ヨリ覚ヘテ其通リシメ〳〵權平ニ試
ヲナサシムルニ昨日ハ此塩梅ヨシ今日ハ是ハ塩辛ノ覚
ルトイニヨリ塩梅ヲ直セハ　御意ニ應シ權平カ
詞ヲモトケハ　御意ニ不應朝暮日々ノ様子ヲ
少モ不違　御心ノ如ク試ミタリト云傳フ如此者
モ又希ナル支シ物テ大身ノ御作法ハ御食餌
ノ時刻モ定リ江戸　御城中等ニテハ大御臺
所ハ其定ノ刻限ヨリ以後ハ圍爐裡ニ水ヲ灑

テ次モ不焼役人モ走ヽ仕廻フトシ御膳所ハ夫程ニハナシトイヘ𪜈是モ時刻有テ仕廻ニヨリ若夜更ルニテ御座ナサレ御遊樂ヲ好ミ玉フハ有合人ヽ𪜈夜更テ腹中モ透ニヨリ店屋ヘ仰出サレニハ類類ナトノシタヽメタルヲ賜ハリ冷酒ヲ下サレヽニヨリ皆是ニ腹中ヲ損ヒシトヽ𪜈モアリ或ハ御膳所ヲモ仕廻テ後御内証ニテ御近習ノ人ヽヘ料理ヲ仰付ラレシ支ナト上代ノ天子ニサヘアリトヽ品ハ何様ニ違フ𪜈御食物ヲ大節ニ吟味入心得ハ油断有ヘカラス毒殺ノ支ハ和漢古今アル支ニ気遣第一トス故ニ出所モ不知物ハ大身ハ召上ラレサル支ニ心ヲ付ヘキシ陣中ハ不及云常旅ト云𪜈行先水アシキヲシラハ勿論不知ハ猶清水ヲ試テ持待ヘキシ野中ノ水古井ノ水等ニ毒アル支等ノ考ヘハ普通ノ知所ナレハ委ノ不弁之其持行様少シキ支ヲ云ヒキ水入筒ヲ腰ニサヽスル等ノ如シ何分ニモ多次ノ用意心得水ノ善悪ヲ知ル支ヲモ其役々ノ人ハ兼テ知ヘキ支ニ大将ノ軍食弁當ナトノ様子其役人ノ心得段ヽ有ヘシ又変ノ至ルヲヒトヤハ朝鮮陣

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノトキ蔚山篭城ニ日本人兵粮ニ詰リスヘキ様
ナカリシニ或時城外ヘ防戦シ中花人ヲ追退ケ
ケルトキ浅野家ノ亀田大隅カ下士菅野矢衛
酒店ヘ入テ見ルニ酒ノ粕ノアリケルヲ一袋取テ城
内ヘ入是ヲ諸勢ニ隠シ我主ノ大隅ヲ初メテ
上下ノ人数漸一日ニ其粕一枚ノ分ヲ食シテ
五六日ヲ送リタリトゾ如此ヲモ知ヘキ者平常
支ヘイヘヒ必ス其心掛アルヘキ又膳奉行
等ノ戦場ノ働キハ臺所奉行ノ所ニテカ如ク
非番ノ侍ハ働ナスヘキ者ニ

軍食ヒシの事

何ニテモ食支ハ限リ有ヘカラストイヘヒ米大豆
小豆麥粟稗蕎麥秬ノ類ハ不及云シ又味噌
塩ハ十人ニ味噌二合塩一合ヲ一日ノ積リトスルニ味噌
糀ヲ入レハ甚ハ損ス玉味噌不損トモ俗ニ三河
味噌トモ又乾味噌不損トモ桶ハ油桶酒桶ナ
トヨシ大瓶或ハ風ノ不入所ヨシ復ハ涼キ所ヨシ
又濃刈ノ里民用ルニハ寒中大豆ヲ煮テツキ
手コロノヒトシテ火ノ上ヘアケ煙ヲアテ又翌年寒
中ニ水ニ浸シテツキテ塩ヲ入ル色赤ヲ暑温ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

不損其味噌ヲ用心ト
モ過ハ能トイヘリ又塩ハ上方吉トシ勢州塩猶
吉ト云 関東塩ハ用心物ヲ味ヒ替ルトシ国々ノ塩ヲ
試テ知ヘシ依ナカラ大船或ハ箱ノ上ニ横水ヲ
ナラヘ積置ハ塩モヘラス塩汁トシテヨシトシ火ヲ
焼ク辺ニ置ハヘラストイヘリ大成筥或ハ土蔵
ノ下ニ板ヲ敷四方モ板ヲ立テ俵ヨリ出シ塩ハカリ入
レハカサヲ不取其間ニアラス海藻ノ類ヲ入交ル
大坂ニテ 秀吉公如此仰付置シ元和落城ノ節
塩蔵焼シニ塩ハ不焼トイヘリ又塩三味ヲ水ニ和シ鍋ニ
入炭火ヲ以是ヲ焼ハ堅ク九一人五十日ノ塩ニ用
ルトシ久シク置ニ宜ク次天ニ遠路ヲ持ニヨシト
干菓干菜干海草塩辛醤ノ類同断或ハ
其国地ニ随テ用意塩辛醤ノ類同断或ハ
鰹節紀州土及勢州ノ節ハ年経タルホト能シ
干鰯塩鰯ハ豫州ノ名物トス是ヲ俵シテ三年ニ
テ入替ルヨシ三年過レハ味替ル尤味噌ニマギ交ヘテ
ヨシトシ寛文ノ初メ比迄ハ大坂ノ御城ヘ毎年
宇和ノ鰯ヲ諮ラレトイヘリトサヽシヨキシ酒モ城中ナトニハ
諮ヘキシ茶ハ兵ノ眠リヲサマシヨキシ濃茶ナヨシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

醤油ヘ入リ是又城中等ヘ誥テ週リ〻〻取替ル
酢ハ食ヲ押ヘテナクテ不叶シ駿府善徳寺ヲヨシトス又梅干ヲ多ク蓄ルヨキ(シ)或ハ布一尺二舛ノ酢ヲ浸テハ干シテ用ユ一寸四方ニ切テ用ユシ
一舛ヲ浸シテ用ノトキ煮出シ又干菜ハ酢ノ用ヲ違ス但久シクハ有ニシキカ又小麥ノ粉ヲ蒸餅ニシテ大サ梧桐子ホトニシテ是ニ酢ヲ
一舛ヲ浸シテ用ノトキ煮出シ又干菜ハ芋ノ莖蕨草類干大根地ノ産ニ可隨干物焼火ノスヽヲアツシハ久敷堪ユルシ又ハ其地ニ到テ求ルニハ卿民ニ周テ知ヘシ又生菜ノ類ハ時節

有テ久敷ハ不持南蠻流ノ干菓子ハ不損又大豆飴ハ年ヲ追テ不損働ノトキ食トナルトイヘリ又砂糖上中下氷砂糖モ耳キ物ハ気カラ養ヒ
食物ノ味ヒヲ出シ老ノ養トイヘリ又蔦粉水ニ不當タメシ又香物品〻アルヘシ支シ味噌漬ハ年ヲ經テ猶宜キシ胡升ハ寒暑着共ニヨキシ生薑ハ水毒ヲ去トシ久シク不持物シ又胡麻或カラシ山升クルミ
唐カラシ等ノアヘ塩類ニ至ルマテ心ヲ付テ軍食ナラサルハナシ故ニ番ノ出ト之イヘ(モ)又其節ニ隨テ不同アルヘキカ真
役人ハ時〻ニ心掛アルヘキ歟然レトモ松永弾正久秀カ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

檜木葉ニテヲ藏ヘ(キ)籠テモ命ヲ全フセストイヘ(ド)此所ハ可入物ヲ論スルニ

兵粮常ニ蓄置ハ直戰ハ積ニ至(ル)ヘキ事

兵粮藏ハ本城ニモ二之郭ニモ守兵ノ用ヲ計テ常ニ籠置ヘキ(シ)火難ナキ心得ハ第一ニ其外城辺ノ藏ハ取入ルニ勝手ヨキヲ(シ)又領内舩路ノ運送ノヨキヲ可用(シ)又敵ノトキハ田畑ヨリ苅取テ其侭モ納(レ)(シ)又我領内敵方ヨリ外取ヘキヲハ先立テモ納テ取(シ)又働入ヘキ国ノ米穀ヲ直段ヨリ先立テモ買取ヘ(シ)是ハ秀吉公ノ中国ヘ御働ノ前如此(シ)ス(ル)ヘキ支カ又積置ニ城中ナラハ俵ニテ成(ト)モ勝手次第乱(シ)米ニテモ置(キ)ナレハ火付(ケ)(シ)乱(シ)米ハ却テ不損トイヘ(リ)乱(シ)米ハ蔓虫モ不生モイヘ(リ)又少ナラハ酒樽ノ跡ヘ入(レ)モヨシ又叔ニテ詰(レ)ハ幾年有テモ不損ト(シ)又秋冬ハ急ナレハ穂ヲワミ入(レ)(シ)則スリテ糟ハ馬ノ食トナル置所ハ惣ニテ所ニヨ(リ)(シ)大難ノタメ(シ)又蓄米ヲ餅米ヲ多クストイヘ(リ)是ハ炊(シ)

食シテモタモチヨシトイヘリ又蕃米ニシテハ久敷不堪シ
若蕃ハコヌカトモニ可置トイヘリ又糒ニシテ色ヽニ添
置トキハ虫不入不損シテ百人ヲ養フヘキヨシ古法前ヽ所
フトイヘリ又白米ニ土ヲ交置支年経テモ不損トシ食スルト
キ水ニサラシ用ルシ朝鮮陣ノトキ彼国ノ藏ニ右
ノ如クシテ有タルヲ初メハ日本人不知シテ食シ
アタリタル者アリ後ニシタヽメラレ覚テアタラストシ
兵粮蓄置度量并
城ヲ以テ云トキハ三年ノ蓄上シ二年ハ中シ
武功の事

一年ハ下シ是居城支シ諸士軍勢ハ不及ヽ妻子
足弱其外人質ハ以下近ノ兵粮シメ(八百万石ノ九
軍役七万五千人トシテ一年三百六十日積二十七万石但一人一日一昇
シ是近ハ入(カラストヽ云カ如シ又境目ノ城等ニハ
百日ノ蓄ハ上シ五十日ハ中シ十日ハ下シ是ハ敵
寄ルト後詰アル迄ノ日数アレハヨキシ戦国ニテ
モ此蓄(ナキト見(テ能列赤森等一百一夜サヽ
早兵粮ニ尽ヽシ千人ニ百石ハ十日ノ兵粮シ千石
ハ百日シ渡シ様ハ二十人組三十人組ト組合セテ
三日ニ一度五日ニ一度渡ス(シ多ク渡セハ或ハ出合ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ナシ上戸ハ酒ニ作リナトシテノ不宜
粮ハ思ノ外ニ入ル有モノナシハ多
諺ニ云千ニ五六千ノ兵粮トカシ
募キカ如クスヘキシ兵粮多キト見レハ諸士油断
シテアシキシ當時モアル事ニ
扶持方ツカエル家中ハ勘弁
ナリ扶持方滿ニト相渡ルハ出合シタリ物入ノ
増テアシキシ只有所ハ渡スヘキホトハ不減シテ有事
心様ニナキハ役人ノ了簡カ尤ノ事守捨ス境ノ時所
佐ヨリ依用捨有ヘキ事シ渡ルヘキホトノ減スル事ハナキ

又蓉戦ニモ武功アリ大坂冬陣ノ時分関東
ノ粮米大坂ニ有之京ノ所司代板倉伊賀守
ヨリ大野修理方ヘ御籠城ノ兵粮可入之カル
御城中ヘ御引取リアレトト申越ニ大野返答
粮米不入其方ヘ御取候ヘトアルヨリ塩ニテ
京都ヘ引取ト又同時大津ニ賀茂ノ大守
ノ粮米アリ大津ノ御代官ノ小野某近辺
ノ山ニ篝ヲ焼セ関東ノ軍勢彼地迄至ルト
見セテ大坂ヨリ窺フニ奪ハレタト云傳フルシ
又秀吉公ノ天正十五年筑紫陣ノ節三十七箇

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

国ノ兵士二十余万ト、粮米三十万人ノ用意ヲテ
馬菊二万頭ノ支度ハ各一年分トゝシ又朝鮮
陣陸路ノ兵士十三万名其古屋ノ屯兵十万余
外六万ノ余慶或ハ舟子馬菊共ニ四十八万
人之米穀ヲ用意トイヘリ惣テ陣中上下ニ
嘉肴美味ヲナサハ一汁一菜ヲ以テスヘキナリ
如此ノ様子ヲ知ヘキ支
兵粮ヨリ外ハ皆ヒたすらの心得或ハ
そ有し事
何分ニモ可成ホトハ食ヲツナクトイヘ不叶事ヒ

至ヘクハ兼テ是ヲ察シ米ヲ漫リニスヘカラサル
山中ナトテハ松ノ皮ヲ取リ十分ニ米五合ヲ加ヘテ
是ヲ煮テ半分ヲ食スレハ一人一日ノ食トナル
トイヘリ又急ニ渇シタルトキ胡麻三十粒ヲ服ス
レハ止トイヘリ又朝鮮陣ノトキ兀良蛤境ヘ
加藤清正ノ人數働キシニ食物スクナシ或日雨
降ニ其所ノ家ノ屋子ノ板ニモアラス一ト(枚)ニ
モアラス不思儀ト思ヒテ
ニテ則チ取テ食シタリトゝ云傳フルし又兵粮ニ
尽クルニハ牛馬ハ各一疋ニテ一日ニ五十人ノ食トナル

ト呉子兵鏡ニアルトゝ又以ノ外飢タル者ハ急ニ
食ヲナサシムヘカラス一ツ粥ヲウスクシテ次シ
アタエ段〻ニ少シ宛増テ七日ホトニ本ノ食ヘ
移サヽハ死スルトシ播列三本ヨリ出タル者共
如此アリシトゝシ如此ノ品シモ知ヘキ支ナリ
又兵粮丸トゝ支兵書毎ニアルモノ〻其一ニ
ヲゝトキハ一法ハ臭鳥獣等ヲ外ニ掛置日
ニホシナカラクサラカシテ虫トナル其下ニ入物ヲ置
カ又ハ地ヲ窪ノシテ外ヘ虫ノ不出様ニシテ
其虫ヲ多ク集メテ是ヲ日ニホシテ散茶ト
薄茶一服程ヲ用テ一日ノ気力ヲ養ヒテ
粮トナルトシ此薬ハ韃靼人用ルトイヘリ
馬ニハ人ニ倍シテ水ニテ用テヨシト云長崎ヨリ
来ル高木某カ傳トテ江戸ニ某傳アリ但シ
経文倶舎ノ中ニアリトテ破合龍湯トゝ云薬
アリ其験シ死人棺ヲ破リ藁リ出ルトゝ云程
ノ妙薬シ是ハ木啄ノ糞シト浮屠ノ説アリ
右韃靼ノ兵粮ニ似タリ木啄ハ万ノ虫ヲ
常ニ食ゝ鳥ゝ又牛ヲ水煮ニシテ塩ヲ不入
能干テ鰹ノ如クシテ是ヲ少宛用テ粮ド

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ナスし塩ヲ入レハ常ノ食ト同シ塩不入ニテ
辟穀トナルし是ハ加藤肥後守ノ時肥列
ノ切支丹御改メノ節
ルヲ捕ヘ何ヲ食シ居メルトヲ恐レテ深山ニ隠レタ
右ノ物ヲ紙袋一ツ程持
食トナシメルトゝシト肥列ノ侍ノ傳トし
又トウホシノ米人参蒼麥粉此三品ヲ等分
シテ九藥トシ一九ヲ食シ一日ノ気力強シトし
一九ノ大サ口傳トゝ（但両ホトし）是ハ北條安房守氏
長ノ日光御番請奉行ノトキ人丈ニ用テ試ミタリト

酒井讃州ヘ物語アリメリトゝ云ゝ又堅（カウヲ）魚（ノフシ）節野
老糯（モチコメ）米此三色等分粉ニシ大丸トナシ人ニ
依テ一丸或ハ二三丸ヲ与レハ一日ヲ心易ク経し
トイヘリ又法人参三両糯米麥粉各三両是
ヲ七粒ニ丸シテ一粒ヲ一日ニ服スヘシ労セサし
トキハ服スヘカラス朦フクルヽトゝシ此二法ハ
山鹿義臣神武雄備集ニ出セリ或ハ醫
家ニモ品々アルヘシトイヘモ良方故人ノ試ミメル
ヲ以テ出ス猶是ニ基ヒテ其宜キヲ尋知ヘキ
心物テ兵粮丸ヲ用テ身ヲツカヒ働ケハ常ノ

安ク居ルトキハ腹中ケ様ツスルトシテ毎日モ
ツヽケテ用ルニ非ス一月用テ一両日モ遣テ又
用ルモノトシ只急ノ働ヲ可用間ナリ且ハ粮ノ尽ル時用ルモノナリ
如此ノ品ニ迄モ兵粮ヲ論スルノ次而ナレハ
出ス必ストハ是ヲ用ルトカラス
古来ヨリ兵ヲ動カス者必ス兵粮ノ支
アリ兵粮ノ等ハ一人ノ上ノ支ナルヘキカ
能其本元ヲ知テ民庶ヲ整ヘ兵粮ノ本
元ヲ弁フヘキ支可シ

第十

一町ヲ割の事　但　先例ハ知ル庶民ヲ
他所　地方役人トの通別ハ知ル軍
用ニ奉ヲ案ヘキ事

甲陽武田家等ニ町奉行ノ名目ナシ上代ニ
テハ左京職右京職是ニ其以後将軍家
ヨリノ四職或ハ所司代是
下ニ又町奉行アリ其司ル所令義解ニ曰ク赴キ
ハ京中ノ戸口（コノ）（戸ハ家数ヲ口ハ人数）
百姓ヲ（百姓ハ前ニハ云通リ惣テノ下民ヲ云）名籍（名ヲ札ニ書レルスノ籍トヲ）
字養シ（字モ養モ共ニヤシナフ）

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

所部ヲ糺察シ　是ハ其類ニ付テ知ル支ヲ孝義ヲ貢挙シ
是ハ其人ニノ善悪ヲモ聞定メ知シ　田宅　是ハ其支配ノ下ノ田地ノ支或ハ地子ノ支　雑繇　是ハ町役ヲ出ス支　或ハ町吏等ノ支シ　良賤ノ訴訟　町人ノ内ニモ良トハ筋目アル者ノ支シ賤トハ筋目モナキ者ノ支シ　貧福ニヨラサル処シ此品ヲ知ヘシ訴訟ハ下ヨリ出ル其品ヲ試許スル支ヲ司ル　市廛ノ度量　市ノ支又諸物ヲ交易スル店ノ支ヲ云シ　是ハ市店ノ　倉廩　ナトノ支　租調　是ハ地ニ付ル年貢ノ数様子ヲ知シ　調物　兵士　町中ニ入ル武士ヲ云シ今ヲ云トキハ浪人者ナトノ租ト云地ニ付タル　兵仗　武器シ当時モ鉄炮ハ天下ノ改メノ如シ必ス鉄炮アリ是等ノ支シ奉公人ノ軽キ者モ兵士ノ類タルヘキシ　器仗　物ヲシテノ道橋過所　道橋ノ支ハ不限支シ上代ハ刀服差具足埒ヲ云ヘメリ今トテモ此類ヲ改メ漫リニナサシメサル支ハ道橋ヨロシカラ子ハ上代ハ車ノ路ヲ行ニヘメリ今トテモ是ハ道橋ヨロシカラ子ハ上代ハ車ノ路ヲ行ニヘメリ今トテモ武家ニハ馬上ニテ早ノモ　往来スルニサワリナキヲ要ス

其外少シハ通リ路ニテモヨロシカラヌ様ニスル支ナリ　闌遺ノ雑物　是ハ道ナトモ落シタル雑物等ノ支ヲ云シ　僧尼ノ名籍　是ハ町中ニアル所ノ僧尼ノ名ヲ記ス等ノ支ヲ司ル　左京太夫一人亮一人大進一人小進二人大属一人小属二人坊令十二人使部三十人直十二人
右京モ又人数左京ニ同シ亮進属ハ下役人ニ坊令ハ坊長モ同シ京ノ町年寄町ノ重立タル役人ニ使部ハ町足軽ノ如シ扱左京ノ下ニ東市正アリ右京ノ下ニ西市正アリ此市正ハ財貨交易諸物ノ直段ヲ定ムルニヨリ其賣買ノ様子ヲ聞届ルニ　器物ノ真偽度量軽重市正自ラ市ニ出テ様子ヲ見ルニ何器物何様ノ物多ク賣或ハ不賣又何様ノ物ハ真ニ何レハ偽リ用ニ不立ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

何ハ過何ハ不足ト其狂童ノ度量ヲ察シテ下知ヲ加フル支ヲ云フ　賣買ノ估價非違ヲ禁察　右賣買ヲナスモ高利ヲ取或ハ押賣押買又ハト賣ハ云ニ不及出所不慥物ヲ賣買シ非違ヲナス者ヲ禁シメ察スルヲ云フ　スル支ヲ司ル東市司ニ正一人估一人令史一人價長五人物部二十人使部十人直丁一人ト西市司ニモ人數同之價長ハ諸色ノ直段ヲ定ル役人ニテ町人ノ内ヨリスル物部ハ其市ノ警固右ノ外ニ様ニノ品類ハ皆諸宿ニ分従フトイヘ𪜈當世ハ皆町中ニアル者ハ町奉行ノ手先ニアル故ニ上代ノ名バカリヲ出ス支次第不同ニ書之　圖書寮ノ下ニ裝潢（ヲウクワウ）是ハ今ノ經師ノ事ナリ　造紙（ツクリ）今ノ紙スキ　造筆（フデツクリ）今ノ筆結ナリ　造墨今ノ墨師ノ事アリ　内藏寮ノ下ニ典履（クツツクリ）今ノ云草細工馬具ヲ作ル等ノ事　畫工司（エノツカサ）ト云有テ畫師アリ　兵馬司ト云有テ物ヲ馬ノ支鞍馬ノ支是ニ付ル支ハ皆下知ス　又造兵司ト云有テ諸ノ兵器ヲ造ル者ノ支ヲ下知ス　主船司ト云ハ船或ハ船具ヲ作ル等ノ者ヲ下知ス　典鑄（イモヂ）司ト云ハ金銀銅銭ノ鋼（スヒ）ノ事ヲ下知ス　漆部（ヌリベ）司ト云ハ漆（ヌリモノ）塗細工ノ者ヲ下知シ　針（ハリ）部司ハ針細工ノ者ヲ下知シ　織（オリ）部司ハ織物ノ支ヲ下知ス　造酒司ハ酒ヲ作ル支ヲ下知ス　鍛冶（カヂ）司

ハ銅鉄ノ雑器ヲ作ル者ヲ下知ス土工司ト云ハ
土器作リ焼物ヲ此類ヲ下知ス主油司ハ
物ヲ油ノ事ヲ下知スルカ如シ拳ヲ計ヘカタシ
此外樂人猿樂諸職人等ノ事迄古ヘハ分チ
其節々ヲ分テ諸司アリ今ハ諸色皆町中
有ホトノ者ハ町奉行ノ下知スルシ故ニ其古
来ノ様子ヲ知テ支ヘノ類ニシ分テタトヘハ
大工何百人銀治何百人ト云カ如ク勘ヘテ
賣用ノ職人ノ不ル減様ニ心得不賣ノ者ノ
ナキヲ要トスヘキ事カ諸職人諸商人共ニ地方

ヘヨラスシテ不叶事ニ故ニ地方役人ト爭フ
志シヲ止テ相通シ相議シテ事ヲ弁スヘキ
但其下ノ職人町人等百姓ト相馴テ金銀
ヲ貸或ハ押賣押買ト賣等ヲナストキハ必ス
地方ノ者ノ大キニ不宜事ニシ町人ハ元来利欲
ヲ本トスルニヨリ身過セストカ事ナシ故ト
到テハ境界格別ナル所ニテ互ニ交易シテ両
方共ニ宜キナレハ奉行ト奉行ト親シク通シテ
モ下ハ別格ヲ以テ要トスルニ相同トキハ共ニ
一国ノ民ナレハ下知スル所ニ自他ハナキ事ニシ仍之

當時江戸ノ評定所等ニテ町奉行御勘定奉
寺社奉行ノ立合ニテ裁ヲ決断アルハ此理ニテ
分レテ見レハ三役ナレ共一理ニ通シテ一理ニ
武家ニヨル者必ス武備ヲ忘ヘカラス其国君
ノ愛スル所ノ者四民各同理トイヘ侍ハ其長
トシテ三民ヲ御スル者モ士ニ於テ軍役
ノ大儀ヲ掛タル者ナレハ君愛ノ切ナル者ニ
此理ヲ知テ侍ノ成立様ニスルヲ第一トシテ次ニ
三民ノ裁ヲ思フ是則士ヲ思フノ基ニシテ
君ニ盡スノ武恩ニ若又士ト三民トノ善悪大キニ
掛隔レテハ士ノ方アシキモ有ヘキナレ共町人
ハ利徳ヲ思フ裁基シケレハ士農ヲメフラカス
裁多シ財用ノ權ヲ商家ヘトラレサルトキハ
国君ノ武行心財用ノ
四民各利徳ニ心頭テ武
思フヘシ猶委クハ次ニ論之

附り

當時武家の町奉行の
畢竟主下知世話の
ハ枝葉ハ何ノ奇妙

江戸ノ町奉行ハ寛初ヨリ重キ御役ト云ヘ賀府
寺ニテ寛前ハ町奉行ハ平組ノ役人シ當時ハ
江戸ノ如ク役柄重ク成シ懲テ所シノ町奉行ハ
狂キモアレ共畢竟勤ル所ハ同シ支シ町中ニ
相交ル所ノ者品シ有トイヘ共町ニアル所ノ者ハ
職人ト商人シ其外ノ者ハ少分シ凡四民ノ内
士農ハ其本一ツニシテ我産業ヲ以テ立所シ
工人ハ我手ニテ働キ造ル業ヲ以テ渡世元来手ニ
身過トス商人ハ利德ヲ以テ是ヲ
ナスノ業ナル心ニ蓄ル才智ナシ他ノ物ヲ以テ他ヘ及ス
間ノ小利ヲ以テ渡世スヘキ者シ本意如此ナルニ
依テ上代明王ノ世ヲ御スルヤ其境界ヲ分テ以テ
慢リニセス交易スル所ノ物ハ市ヲ立テ賣買ヲ
ナシ高利ヲトラセス爰ニ於テ其價長ヲ定メ
テ諸物ノ直段ヲ定ル支来ヲ以テ主トシテ其物
何レノ国ヨリ産シテ道程ノ入用運送ノ増ヲ計
小利ノ分量有テ交易スル皆米ニヨル所シ
然シ共時代降テ戦国ニ其法ヲ失ヒ三民各
其業混雑シ商家ニ利欲ヲ思テ邪智傍才
ノ者出テハ賣買ニ手ヲ空シテ金銀米銭ヲ人

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

貸テ高利ヲ得ル者諸国ニ多クナリ財用ノ権自
ワカラニ彼カ黨ノ有ト成ル支本朝ノミナラス中花モ天
竺モ古来ヨリ有支シ然シ乍ラ百姓職人ト違ヒ商人ハ
元来恒ノ産ナキニヨリ自然ト放埒ナル者親以来
蓄ヘタル金銀財宝モ一時ニ滅却シテ一己ノ身ト
ナルモアリ又ハ一己ノ者タリトイヘ共其仕様宜ク
テハ大富貴ノ身トナル支我国英雄豪傑ノ士
ノ如シ士農工ノ者ハ治世ニハ禄ヲ世々ニシ産業ノ
世ニナルハカリニテ恒ニ高下ヲ不見庸愚トイヘ共
サシテ不表透逸ノ機アリトイヘ共サシテ不秀治世
ニテノ英勇盛表アルノ者ハ商家ニアリ其治世
久シケレハ農人ニモ我産物作得ヲ以テ交易スルニ利潤ヲ得
タルヲ基トシテ手廻ヲナシ或ハ邪智ヲ以テ富ヲナシ其名
百姓ニシテ本意商人ノ如クナルアリ然シ共其者ハ
元来百姓ニテ田地ニ在テノ富ナレハ至テ表ル支
ナシ又元来商家ニ生レタル者ノ富テ後ニ田地ヲ
竊ニ求メ表向ハ買人ニテ内意地ニ持ヨリ表
ヲ見サル者モアリ工人トイヘ共我ナス業ニ精ヲ
出シ交易ニ次ヨリ利ヲ得テ手廻シヲナシ富ヲ
待テ表向ハ工人ニテ内意ハ商人百姓ノ如キ者

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

モアリ爰ニ於テ三民ノ業相交エテ共ニ商家ノ利欲ヲ思フ其利欲ヲ思フ者ハ必ス時トシテ我幸ヲ得レハ栄ヘ時トシテ幸ヲ失ヘハ衰ル支畢竟是モ天ナス所ニ其間ニ田地ニ便テ富ニ篤クスル者ハ古ヘノ地侍ノ如ク自然ニ邪僻ヲ企ル者アレハ一揆徒黨ノ端トナル支ハ前章共ニ委シ爰ヲ以テ町中下知スルノ役人ハ其町人ノ一已一家ノ栄枯ヲ見ル支ニ令義解ニフヘカラス其所ノ栄枯ヲ悔育シ戸口増益スル者曰赴ナハ其下知スル所ヲシヨレトス但人ノ生死栄枯ニ非ス其所ノ栄枯ニテ惣様ノ家數モ多ク成惣様ノ人數多クナリテモ所ノ繁昌シテ貧窮ノ渡世ナラヌ者モナノ大富モナキヲ上トス一戸トハ正丁一人ヲサスヘシ次丁二人中男四人其ニ不及者ハ六人ニテ各正丁一人ニ向ノ支ニ其所ヲ十分ニシテ一分ホト増テ繁昌スレハ一考ト云ニ分三分各同シ但其繁昌ト云モノモ實用ノ支ニ国家ノ爲益ノ度ハ繁昌ニテナキニ同書ニ市正ノ支ヲ云赴キ市廛ノ作法ヲ不擾様ニシ菲盈ヲ不行男女ノ肆ヲ別ニシ貴物等ノ差別ヲ立テタトヘハ食物ハ食物類ニヲ分ル衣服ハ衣服類ヲ分ルシ其市店ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ス行状ナキ様ニ下知スルヲ市司ノ手柄トシ是ヲ知ヘシ筋ナキ繁栄ノ支ニ非ス然シハ町奉行ト云ハ其所ヘ付タル奉行ニテ町人ノ奉行ニアラス町人ハ其地ニ付タル下民ナレハ下知ヲ加フルシ前ニモ云防長ハ京都ノ町年寄ニテ左右京職ノ下ニ有テ下知ヲ加フ是ハ町人ノ頭ト云者シ第一此筋ヲ本意トシテノ上ニ町人ノ内ニモ久シキ筋目アル子細ノ家柄ノ者ハ当時ノ貧福ニハアルヘカラス前ニ云良ト云者サレハ是ハ格別ノ沙汰シ其内ニモ其所代ヽ筋目アル者トカ又ハ其国君ニ付テ先祖ノ忠節御奉公申上タル筋目ノ者トカ又ハ指當リ国家ノタメニ宜キ子細アル筋目ノ者トカ三段ノ様子有ヘキシ又當時指當リテ町中支ヘノ役儀ヲ勤ル者此内ニモ筈實才覚調タル者カ筈實ハカリナルカ才覚アルヒ邪智有者カ此三段ノ様子ヲ基トシテ品ヽアルヘシ此品ノ者モ貧福ニハヨラサルヘシ又當時福有ノ者此内ニモ家久シキ福者ノ作法能カアシキカ或ハ仕出ノ福者ノ様子能カアシキカ此四段ハアルヘシ是ヲ基トシテ其節目ノ良賤ニ依テ差別又ハ其者ノ作法善悪ノ様子有ヘキ哉シ扱又

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

此外ハ雑々ノ賤キ者ナルヘシ且又諸職人モ右ニ同ノ
其類々ヲ分テ段々ノ様子ヲ知ヘキヿ此本立テ知
テノ上ニ町中ニアル醫者出家ニヨラス品々アルヘシ
或ハ旅人或ハ他国ヨリ来テ在住ノ者或ハ所ロノ
着他国ヘ行等ノ品々大所ホト支證ケレハ覚
尽ス支ハ不叶故ニ大法ノ名目ヲ心定メシテ
町役人ヘ段々ニ云渡シ常ニシラヘテ能覚ヘ我々
ノ支配々々ノ支ノ不漏様ニナシ置トキハ急々
支アルトキニ至テ兼テ定メ何級ノ者ト其役
人間テタトヘハ揚(アゲ)タトヘハ柳ヘスルニモ心得アルヘキ

哀シ近年京江戸等ノ町奉行ノ町方ノ裁許
アル咄ナト多シトイヘ𪜈支ハ皆枝葉ノ咄シ其本ニ
歸テ見レハ所ニ付タル町人トイヘ𪜈右ニ云如ノ段々ノ
様子アル支ナレハ其人ニ依テノ仕置ヲナス支ニ
其柳揚麁忽捐従与奪ハ時ノ奇変ニ依
テ又侍ト違ヒテ支軽ノ義ノ薄キ雑人多キニ
ヨリ其法ヲ厳ニシ或ハ支ノ埒サヘ明トキハ
ヤスラカニ用ヲ弁シ浮屠ノ説ニ云カ如ノ
一殺多生ノ味ニ別シテアル支シ猶委クハ
次々述ン

諸物の直段を下或ハ他国へぬし或ハもち
業曜よ貴を事を商物の利よろ
等治世の町人の招よたち或ハ下賣
買置等非法乃者も法よろしめく
なを時ハおのたち止へき事

本文ノ品ニ不ス可キ諸物ノ直段ハ
求ル者多ケレハ其品ノ物高クナル然レハ其
求ル所ノ者ヲ制スレハ下直ニナルノ端タリ
タトヘハ衣類ヲ以テイヘハ何品ノ着ハ何品ノ
物ヨリ上ノ物ヲ着スル事ヲ禁スト云カ如キ
ハ法来ノ法シ是モ今ノ俗衣向ハ不着シテ
ニハ奢ヲ宛ム是ニ依テ其無用ノ織物ヲナス
ヘシヲ禁止スルトイヘ𪜈猶諸物高シ是已レカ
其衣類ヲ着シテ遊フ所多キ故ナレハシ其
奢ルヘキ節ノ𡚴ヲ時々ニ停止スヘキ𡚴シ其品一
様ニ不限𡚴ナカラ其𡚴ノ長過セサル以前ヲ示ス
ヘシ魚物ノ高直ナルハ料理スル者ノ多キハカリ
ニ非ス其商人ノ私曲ニテ多キ物ハ隠シテ
高クスルカ如キアリ或ハ近年江戸京ハ不及ム
諸所ニ料理屋有テ手廻シヨリ人ニ此所集テ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

賃ヲナス事多シ少分ノ事ト雖モ害ヲ生ズル
其費ヲ又利ニカケルカ如キアリ畢竟是等ノ
如キ古来ナキ商賈ヲハ堅ク禁止スヘシ其
禁止スレハ其町人當分難儀ノ様ナレモ一日モ
唯ハ居ラレヌニヨリ余ノ渡世ヲナシテ身ヲ
過ル必ス饑ニモ不及モノニ
如此ノ遊ヒ所ヘモ不行ニヨリ勝手ノタメヨリ
作法モヨリナルヘシ又自国ノ産物ヲ他国ヘ密
ニ遣ス事堅シハ自国不自由ニナルヘシ是ヲ堅
クスレハ商人立廻リテ其出来スル所ヨリ直ニ他国
ヘ出スヘシ或ハ其産物ヲ所ヘ行テ求ルトキハ
下直ニ求ノ府ヘ出テ賣トキ莫太ノ利ヲ取
テ賣ニヨリ其産物ノ出ル所ノ者共腹ヲ立テ
産物ヲ府ヘハ不出シテ密ニ他国ヘ出セハ
府ヨリ来ル商人ノ求ルヨリ直段宜キニ依テ
其手廻ヲナス等ニテ弥ス不自由ニナルニヲ
以テ夕トヘテヘタトキハ賀府ニテ小松ノ絹松任ノ
紬等ヲ所ニテ求レハ下直ニシテ纔ニ八里三里ノ
道ヲ経テ金沢ノ商人ノ手ニ渡ヲハ莫太ノ
直段トナル是其間ニ幾人モ利ヲ取ル者多キニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

り如此其法ヲ定ル可シ魚ナトモ此ノ通リシ
鱈ナトハ沖ニテ直ニ他国ヘ遣スナトいふし其
虚實ヲ糺シ知ヘキ支シ治世ニハ侍共モ其法
ヲ取失ニ武具ヲモ拂或ハ質物ニ入ルモ有ヲ
流シテ町人ノ手ヘ渡リ他国ヘ拂ニ遣ス等ノ支
諸国多シトいふ必ス武具ノ町方ニ
度真品ヲ奉行役人ヘ断リ或ハ武具ノ町方ニ
ハ帳ニ付ヲ改メ少シモ他国ヘ遣ス支不叶様
ニスレハ侍共モ賣出ス支不叶ナルヘシ殊更
ト賣等ヲナシ買置等ヲナス者ヲ改ントキハ
度ヲ緩シトシテハ叶フヘカラス急ニスヘキ支
メトヘハ酒屋ニ酒ヲトト賣ニスルトキハ酒林ヲ
取り上ル如ク心得ヘシ法ヲ正フシテハ私曲
ナリ難キ

一毎用の往来ハ禁ス他国ヨリ来ル者
の親疎を改メ関所ハ通ヲ取ル通ヲ
非常ハ改ムル定法の事但
且城下の町々の本ノ
町並ノ所ヲ無用ノ往来アルヲ咎ムルハ晝夜
ニ不限非常ヲ改ル然ル共其品ニ不心付

トキハ合点ユカサヌモノシ
ムトキハ春ノ万歳トテ来ルハ越前ノ者ナリ
毎年来ル宇治ノ茶師伊勢ノ御師ノ類ニ
定宿有テ其所縁アル者ハ疑ニアラス然ル共
此内ニモ真偽アリ支ヲ改ルハ役人ノ業シ必
此ニ品ニ不限連年来ル者有ル支シ是ニ便テ
自国ノ町人邪曲ヲ不工様ニス(キ支シ又
六十六部ノ経ヲ納メニ諸国ヲ週ル行着ハ早ク
行過(キ者シ如此ノ者日ヲ重子テ一府ニ在
留スルハイカヽト疑フ(キ支シ此類ニ何ホトモ有
(ヒ)戦国ニハ如此ノ類ヒノ者ニモ便テ計策ヲ
ナス支アリ治世ニハヤヽモスレハ町人ナトノ邪智
アル心者如此者ニ便テ他国ノ密通ヲナス
支アリ可心得支シ故ニ其来ル所ヲ改メ累
年来ルカ唯一通リニ滞留ナキカノ様子ヲ聞届テ
関所ノ通リ手形ノ有無ヲ糺シ扣等ノ支アリ又
常ニ町ニテ木戸ヲ建ル(キハ非常ヲ改ルタメ
ナレ共其番人或ハ裏老ノ者ヲ置或ハ晝ハ自
分ノ忰ナンノナシ夜ハ是ニ疲レテ守リヲ怠ルアリ
或ハ城下ノ惣構ハ非常ヲ改ルタメ第一ナレハ堀ノ